

年報

No.21

平成2年度

佐賀県立博物館

佐賀県立美術館

まじめに

このたび、平成2年度事業のまとめとして年報21号を刊行することになりました。当年度は博物館が開館20周年を迎え、特別企画展「佐賀の名宝—いろいろと—」を開催いたしましたところ、多数ご来観いただきました。この20年の間、曲がりなりにも着実に成果を上げることができましたのは、関係各位のご支援とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

博物館では、常設展「佐賀県の歴史と文化」に加えて、3号展示室・博物館教室などを利用して「小さな展覧会」を催してきました。肥前刀・県内所在の狩野派絵画・雛人形などの展示は好評を博しました。また、「博物館土曜教室」は開かれた楽しい博物館をめざし、講演会や体験学習会を館員だけでなく外部からも講師をお願いして行ってまいりました。

美術館では「近代の美術・工芸」をテーマにした常設展で、「古賀忠雄のスケッチ」「ベルナール・ビュッフェの銅版画」「美術館への道程展—いかにしてコレクションは形づくられたか—」など館蔵品を中心に関連資料と共に紹介しました。

企画展は「わが魂をえがく 鍋島紀雄の世界」で、孤高の詩人画家とうたわれた鍋島紀雄の自由で豊かな詩情に満ちた作品を展覧しました。また、県文化課との共催で「創造 in Saga—県展・美協展優秀作品13年の歩み一展」として昭和53年度以来、県展、美協展の受賞作品の中から佐賀県が購入した作品を一堂に展示し、これまでの歴史を振り返りました。加えて、九州北部三県懇話会で提唱された「福岡・佐賀・長崎三県合同企画展」の第1回として「西洋画への挑戦—洋風画から洋画へ、そして」を年度末に開催し、これからとの合同企画展の先鞭をつけました。ほかに共催事業として各種の展覧会が催され、いずれも盛況でした。なお、今年度も各方面の方々から多くの資料のご寄贈があり、博物館・美術館の資料が年々充実していることに深く感謝いたします。

しかし、一方では利用者数の拡大、多様化し急速に進化するニーズへの対応、展示場を含めた環境の再整備、資料の収集と保管など多くの課題を抱えています。職員一同一致協力して、よりよい展望へ向かって努力していきたいと考えております。今後ともご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成3年6月1日

佐賀県立博物館長 武藤 佐久二
佐賀県立美術館長

目 次

佐賀県立博物館

博物館の沿革	3
博物館日誌 平成2年度	4
規模および施設	5
組織・人事異動	5
職員名簿・博物館歳出予算 平成2年度	6
事業の実施状況	
1 平成2年度 博物館常設展	7
2 平成2年度 特別企画	
佐賀県立博物館開館20周年記念	
佐賀の名宝—いろいろとかたち一展	15
3 企画展ならびにその他の展覧会 平成2年度	20
4 博物館観覧状況調べ 平成2年度	20
5 普及活動	22
6 資料調査	24
資料の概要—平成2年度・博物館—	
1 購入資料	25
2 寄贈資料	25
3 寄託資料	27
4 資料の貸出状況	27
5 購入・寄贈図書	
—平成2年度 博物館・美術館共通—	29
茶室「清恵庵」の管理と運営の概況	30

佐賀県立美術館

美術館の沿革	31
美術館日誌 平成2年度	31
規模および施設	32
平成2年度 美術館歳出予算	32
事業の実施状況	
1 平成2年度 美術館常設展	33
2 平成2年度 美術館新収蔵品	36
3 平成2年度 特別企画	
わが魂をえがく 鍋島紀雄の世界展	46
4 企画展ならびにその他の展覧会 平成2年度	51
5 美術館観覧状況調べ 平成2年度	52
6 普及活動	54
7 資料調査	54
8 ホール・画廊・研修室催しもの	55
資料の概要—平成2年度・美術館—	
1 購入資料	56
2 寄贈資料	56
3 管理換資料	58
4 資料の貸出状況	58
佐賀県博物館及び美術館協議会	59
博物館・美術館職員名簿(平成3.4.1現在)	60

平成2年度

佐賀県立博物館

博物館の沿革

- 昭和26年4月1日 佐賀県文化館設置条例制定、佐賀県文化館が設置される。
- 昭和35年4月1日 佐賀県文化館設置条例を博物館登録のため改正。博物館法第10条に基づき佐賀県文化館を博物館として登録する。
- 昭和36年、新博物館建設の気運が高まり、41年度に調査費計上。
- 明治百年記念事業として県立博物館を建設することになり、佐賀大学教育学部跡を敷地に選定、昭和43年度に設計を委託し建設計画に着手し、昭和43年度から昭和45年度にわたる継続事業として建設することとなる。
- 昭和44年1月21日 佐賀県博物館建設整備委員会を設置。
- 昭和45年3月31日 佐賀県文化館設置条例廃止。
- 昭和45年4月1日 佐賀県立博物館設置条例公布。佐賀県立博物館協議会条例公布。佐賀県教育庁博物館開設準備事務局設置。
- 昭和45年7月1日 佐賀県立博物館完工。佐賀県立博物館設置条例施行。博物館開設準備事務局廃止。博物館職員の発令、館長以下18名。佐賀県立博物館協議会条例施行。
- 昭和45年7月16日 佐賀県立博物館協議会委員を任命。
- 昭和45年10月14日 佐賀県立博物館開館記念式典挙行。
- 昭和47年3月4日 鉄器減圧樹脂含浸装置を研究室に設置。
- 昭和48年10月10日 茶室「清恵庵」を、市村清氏のご遺志により市村幸恵夫人から寄贈を受ける。
- 昭和50年9月20日 茶室落成式。
- 古賀忠雄作「岬の男」(ブロンズ) 前庭に据付完成。
- 昭和51年9月18日 皇太子殿下、同妃殿下「柿右衛門名品展」ご観覧のためご来館。
- 昭和51年10月22日 天皇陛下、皇后陛下「若楠国体芸術展」ご観覧のためご来館。
- 昭和52年12月12日 佐賀藩鋳造鉄製「カノン砲」(復元) 玄関前据付完了。
- 昭和53年5月4日 常陸宮殿下、同妃殿下常設展「佐賀県の歴史と文化展」ご観覧。
- 昭和53年11月5日 茶室「清恵庵」開室5周年記念合同茶会開催。出席者約1,500名。
- 昭和54年7月19日 入館者総数100万名に達する。
- 古賀忠雄氏遺作(232点) 遺族より寄贈。
- 昭和55年4月23日 山口猛彦氏遺作(34点) 遺族より寄贈。
- 昭和56年4月17日 鍋島則子氏より工芸品(85点) 寄贈。
- 昭和57年5月10日 御厨俊江氏より御厨純一氏の作品(28点) 寄贈。
- 昭和58年2月7日 佐賀植物友の会(須古将宏会長) から植物腊葉(さくようーおしば) 18,000点の寄贈。
- 昭和61年3月17日 天皇陛下、「森林と文化展」ご観覧のためご来館。
- 昭和62年5月23日 入館者総数200万名に達する。
- 昭和63年4月15日 木材恒久保存処理機 夕吹2000を導入。
- 昭和63年8月31日 過去最高の入館者数189,000名を記録(平成元年度の入館者数)
- 平成2年3月31日 佐賀県立博物館開館20周年記念「佐賀の名宝—いろとかたち—」展が開場。
- 平成2年10月6日 以上のほか、多くの方々から貴重な資料を寄贈して頂きました。
- ここには点数の特に多いもののみを記載しました。

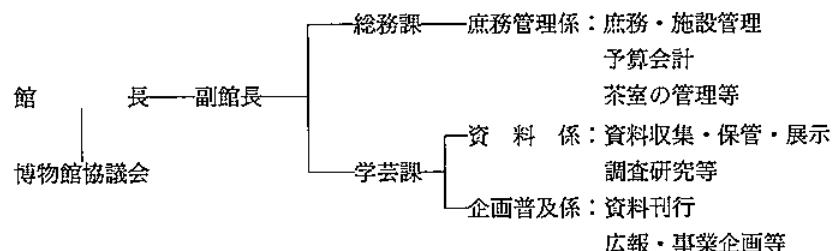
博物館日誌 平成2年度

平成2年4月1日	職員人事異動 常設展 佐賀の民俗1—山のなりわい—(～7月22日)
4月20日	平成元年度新収蔵品展
5月5日	「子供の日」により常設展無料
5月26日	土曜教室「土器の復元に挑戦しよう」講師・木下 巧
5月31日	常設展 鍋島鍛通一いま・むかしー(～7月22日)
6月16日	土曜教室「鍋島鍛通一いま・むかしー」講師・宮原香苗
6月20日	常設展 絵図にみる幕末維新の佐賀(～7月15日)
7月7日	土曜教室「絵図にみる幕末維新の佐賀」講師・尾形善郎
7月11日	博物館学実習(～7月20日)
7月20日	常設展 子供のための自然史(～9月30日)
7月26日	常設展 佐賀ガラス／副島種臣・中林梧竹の呂(～9月16日) 常設展 佐賀の民俗2—有明海の漁撈絵巻—(～9月16日)
7月28日	土曜教室「昆虫標本の作り方」講師・宮崎武夫
9月19日	第40回佐賀県児童生徒理科作品展(～9月26日)
10月6日	佐賀県立博物館開館20周年記念展「佐賀の名宝—いろいろとかたち」(～11月4日) 企画展記念講演「葉隱の思想系譜について」講師・葉隱研究会会長 古賀秀男
10月13日	企画展記念講演「佐賀の仏教美術」講師・北九州大学教授 錦織亮介
10月27日	企画展記念講演「経塚と写経」講師・東京国立博物館有史室長 関 秀夫
11月17日	第40回佐賀県美術展(～11月25日)
12月1日	常設展 葉隱の美・肥前刀(～1月15日)
	常設展 佐賀の民俗3—手わざの美・佐賀の職人たち—(～3月31日)
12月22日	土曜教室「肥前刀の美と系譜」講師・竹下正博
12月28日	執務納め式
平成3年1月4日	執務始め式 土曜教室「手わざの美—佐賀の職人たち—」講師・山崎和文 「成人の日」により常設展無料
1月15日	常設展 県内所在の狩野派絵画(～2月24日)
1月19日	常設展 煮る・炊く・蒸す—鍋・釜の歴史—(～2月24日)
1月22日	土曜教室「発掘のはなし」講師・蒲原宏行
2月2日	土曜教室「狩野派の絵画」講師・福井尚寿
2月23日	常設展 雛人形(～4月14日)
2月28日	常設展 龍造寺氏関係資料(～4月14日)
3月5日	土曜教室「龍造寺氏について」講師・樋渡敏暉
3月23日	

規模および施設

本 館		施 設	
構 造	鉄筋コンクリート造	3階建	ロビー（案内所・常設展受付） 349.5m ²
規 模	敷地面積	30,926m ²	1号展示室 193.6m ²
	建築面積	2,149.1m ²	2号展示室 352.0m ²
	延床面積	4,638m ²	3号展示室 484.0m ²
			大展示室 523.5m ²
			中展示室（博物館教室） 136.0m ²
			収蔵庫並整理室 524.0m ²
茶 室		研究室 66.0m ²	
構 造	木造平屋建	事務室 80.0m ²	
規 模	床面積	資料調査室 64.0m ²	
		茶道具庫 24.0m ²	
		車 庫 56.0m ²	
		荷解場 86.0m ²	
		電気室 48.0m ²	
		ボイラー室（制御室を含む） 181.0m ²	
		その他 1,410.4m ²	

組 織



人 事 異 動 (平成2年4月1日付)

転 入				転 出		
課 長	樋 渡 敏 嘉	大川中学校より		課 長	小 宮 瞳 之	文化課へ

博物館・美術館職員名簿(平成2年4月1日現在)

課名	職名	氏名	課名	職名	氏名
総務課	館長	出和人	芸術課	学芸課長	樋渡敏璋
	副館長 (総務課長事務取扱)	井上昭利		資料係長	宮崎武夫
	副館長	尾形善郎		主査	松本誠一
	庶務管理係長	古賀栄二		学芸員	蒲原宏行
	主査	楠美智子		学芸員	竹下正博
	主査	古川宣明		非常勤嘱託	浜野四郎
	主事	古澤貞善		専門員 (係長事務取扱)	木下巧
	主事	石井康芳		主査	宮原香苗
	技術員	戸川内匠		学芸員	福井尚寿
	事務員	坂井卓次		学芸員	山崎和文
	事務員	小石武彦	計 22名		
	非常勤嘱託	牟田壽吉			

博物館歳出予算 平成2年度

科目	予算額(単位千円)	科目	予算額(単位千円)
(博物館費)			
1 博物館運営費	38,960	4 企画展費	13,563
管理運営費	38,260	企画展開催費	13,563
会議及び研修費	474	5 常設展費	1,786
博物館協議会費	226	常設展示費	1,786
2 資料整備費	22,156	6 普及活動費	33
資料購入費	7,472	研究講座費	33
資料整理費	14,565	7 資料刊行費	468
資料収集費	119	8 茶室管理費	227
3 調査研究費	811	9 施設整備費	4,480
研究費	155	10 資料目録刊行費	4,182
調査費	656		
次年度調査費	112		
歴史美術調査費	75		
考古資料調査費	34		
調査刊行費	435		
		計	86,666

事業の実施状況

1. 平成2年度 博物館常設展

I 佐賀県の自然（1号展示室）

佐賀県は九州の北西部に位置し、北東部は福岡県、西部は長崎県に隣接する。北は対馬暖流が北上する玄界灘に面し、南は日本一の干満の差で有名な有明海が広がっている。

佐賀県を地形的に大別すると、脊振山地、西部丘陵地、多良火山地、佐賀平野の四地域に分けられる。脊振山地は県北部に横たわる脊振山・金山・九千部山などの山地で、古生代末期の三郡変成岩類と、これに貫入した中生代白亜紀の花崗岩類で構成されている。西部丘陵地は八幡岳・黒巒山・国見山などを含む熔岩台地で、新生代第三紀の堆積岩類と、その上に噴出した第三紀末から第四紀初めの各種火山岩類で構成されている。玄界灘に面した北西海岸はリアス式海岸で、島嶼部は西部丘陵地熔岩台地の延長とみられる。多良火山地は、佐賀県最高峰の経ヶ岳・多良岳など第四紀初期に形成された安山岩質の成層火山と熔岩台地で構成されている。佐賀平野は新生代第四紀沖積世に、筑後川・嘉瀬川・六角川などによってつくられた複合三角州で、表層は沖積世の有明粘土層で下層は洪積世の堆積物が存在する。

佐賀県産の化石は新生代5000万年前以降にできた第三紀～第四紀の二枚貝・巻貝・オオムガイなどの軟体動物やサメの歯・ナウマンゾウ臼歯などの脊椎動物、メタセコイア・ハス・ヤナギ・珪化木などの植物の化石が産する。

動物では、シギ・チドリ・カモ類など多くの渡り鳥の飛来地・休息地として有明海は日本有数の地で、現在までに佐賀県から記録された野鳥は300種以上にのぼっている。県鳥カササギは、国の天然記念物として大切に保護されている。アリアケシラウオ・ヤマノカミ・ワラスボ・チクゴエビ・アリアケガニは有明海だけに棲む特産種であり、ムツゴロウは珍魚として有名であるが減少がはなはだしく県有明海水産試験場では人工交配の実験をかけ養殖による増殖をかけている。また「生きた化石」と呼ばれるオオシャミセンガイ・ミドリシャミセンガイ、伊万里湾のカブトガニ、脊振山地・多良火山地のムカシトンボは地質時代の生き残り生物として有名である。

植物では、山岳地帯に常緑広葉樹林を中心とした自然林も点在しているがほとんどは人工林である。代

表的な自然林は、脊振山地のブナ林、多良火山地のモミ林、脊振山地・多良火山地・西部丘陵地のカシ林、玄界灘沿岸・島嶼部のタブ林などがある。佐賀県で発見された原産地植物としてはカネコシダ・クロカミラン・ハガクレカナワラビ・キュウシュウコゴメグサ・リュウゾウジヤナギ・クセンブツツジなどがある。ミツガシワやエヒメアヤメの自生は特筆できる。また、クスノキは佐賀を代表する樹木である。

① 佐賀県のおいたち

佐賀県地形模型、佐賀県の地質・地史

② 佐賀県の岩石

球状閃緑岩・花崗岩・石灰岩・火山弾 他

③ 佐賀県の化石

ヨコヤマオオムガイ・シキシマハス 他

④ 佐賀県の植物

クロカミラン・カネコシダ・アオホラゴケ 他

⑤ 佐賀県の昆虫類

チョウ・トンボ・カミキリムシ 他

⑥ 佐賀県の野鳥

カササギ・キジ・ヤマドリ・フクロウ 他

⑦ カブトガニの生態

⑧ 模型類

- 有明海干潟生態模型

- エヒメアヤメ生態模型

- 森林の生態模型

- 森林の働きの模型

- タイラノザウルス模型 他

II 原始・古代の郷土（2号展示室）

旧石器時代・縄文時代

近年我が国の旧石器文化探求の勢いは目ざましく、10万年以前の前期旧石器文化の様相もかなり鮮明になりつつある。本県の資料は後期から終末期のものに限られるが、多久市鬼の鼻山（安山岩）や伊万里市腰岳（黒曜岩）などの石器素材原産地を中心に特色ある石器文化が展開している。

縄文時代も基本的には採集経済の社会であったが、石器とともに土器が用いられるようになり、人々の食生活は一層安定した。

① 石器を使った人々—旧石器時代—

- 石器に使用された原石

- 旧石器時代末期の各種石器

② 土器を使くらし—縄文時代—

常設展

- 縄文時代早～前期の土器と石器
- 縄文時代中期の土器と石器
- 縄文時代後～晚期の土器と石器

弥生時代・古墳時代

弥生時代になると水稻耕作中心の生産経済社会となり、各集落の統合・離反の中から、やがて部族国家が形成されてゆく。本県は特に大陸文化を受容し、それを日本化していく弥生文化播籠の地として重要な位置を占める。

古墳時代は前方後円墳に象徴される権力者の抬頭と統一国家形成が進展した政治的激動期であった。同時に須恵器生産や製鉄に代表されるような先進技術が多く渡来人によってもたらされた時代でもあった。

① 水稻農耕社会の発展—弥生時代—

- 土器の変遷
- 大陸系磨製石器
- 青銅製武器から鉄製武器へ
- 弥生人の装身具
- 青銅の鏡（舶載鏡と仿製鏡）
- 弥生人のまつり（銅鐸・青銅製武器形祭器）

② 古墳が築かれた頃—古墳時代—

- 古墳時代前期の土器—土師器一
- 古墳時代後期の土器—須恵器一
- 古墳時代の鏡
- 古墳時代の武器
- 古墳時代の馬具
- 古墳時代の装身具
- 円筒埴輪

◎ 特別展示「吉野ヶ里遺跡」

有柄細形銅劍・ガラス製管玉・貝輪
ほか58点を展示

4月1日(日)～10月28日(日)

III 上代・中世の郷土（2～3号展示室）

この時期の佐賀をものがたる資料としては、仏教の伝統を反映して、仏像・仏画などの仏教美術が質量ともに豊富に残されている。

なかでも中国大陸や朝鮮半島からの将来品に優品が多く、彼の地と一衣帶水の間にあり、古くから密接な交渉を重ねていた佐賀の特徴をみせている。

《7月26日～9月16日》

天部形立像（三学寺 平安時代・11世紀）

- 水上懸仏（大和町水上地区 鎌倉時代・13世紀）
- 阿弥陀如来坐像（三学寺 鎌倉時代・14世紀）
- 雲板（専称寺 室町時代・1409年）
- 大般若經断簡（正法寺 平安時代・12世紀）
- 金立神社縁起図（金立神社 江戸時代・17世紀）
- 徐福採薬図（金立神社 中國・1921）

《1991年2月28日～4月14日》

4月8日は釈迦の誕生日にあたり、寺院では花祭りあるいは灌仏会などと呼ばれるお祝いが行われる。

この期間の展示では、花祭りの本尊である誕生仏のほか、釈迦を理想の姿として修行した禅宗の美術を紹介した。

誕生仏（萬歳寺 高麗時代）

- 大般若經断簡（正法寺 平安時代・12世紀）
- 円鑑禪師像（高城寺 鎌倉時代・1300年）
- 地蔵菩薩坐像（高城寺 南北朝時代）
- 雲板（高城寺 南北朝時代）
- 袈裟（萬歳寺 明時代）

IV 近世のあゆみ（2号展示室）

肥前の戦国時代を征したのは五州二島の太守とうたわれた龍造寺隆信であった。しかし、龍造寺軍が島原半島で有馬・島津の連合軍に負けて隆信が戦死した後は、政権が龍造寺氏から鍋島氏に移ってくる。全国的にも豊臣秀吉によって統一がなされ、文禄・慶長の役での名護屋城の築城は肥前にて大きな歴史上の出来事であった。

幕藩体制が整ってくと肥前は、佐賀藩、唐津藩、対馬藩の領地に分かれ江戸時代の太平の世が続くが、長崎警備を命じられた佐賀藩は幕末には、西洋の先端技術を取り入れ、やがて起こる維新の一翼を担うことになる。これらは「はがくれ」を生む風土の中に儒学、武芸の隆盛と相まって多くの人材を輩出し近代日本の礎を築いた。

主要な展示資料は次のような物があります。

- 龍造寺隆信・政家・高房画像、龍造寺隆信感状、紺糸威桶側二枚胴具足（伝隆信着用）、鍋島直茂・勝茂画像や自筆の書状など
- 肥前名護屋城図屏風、慶長の役陣立て、朝鮮国礼曹諭告文など
- 長崎警備図屏風（宝永2年・正保4年）、レザノフ来航図、フェートン号図、幕末の対外関係図など・鍋島直正肖像画、直正書、忠宣公蘭艦乗込絵図、蝦夷開拓勅書など
- 大銃製造方絵図、公儀御石火矢錆立方絵図、佐賀

藩精練方絵図、カノン砲雛型、佐賀藩蒸気車雛型など
○長崎海軍伝習所の図、佐賀藩三重津海軍所の図、觀光丸模型など
○山本常朝筆山水自賛画、葉隱写本(孝白本外)、天縱殿扁額、聖堂三体像、古賀精里・穀堂書など

V 近世・近代の工芸（3号展示室）

平成2年度は、小城羊羹で知られる森永家御寄贈の陶磁器、漆器など新収蔵の資料にはじまり、明治から昭和前期にかけての佐賀の産業工芸の旗頭としてしられる鍋島綏通（鍋島綏通など50件56点、参考資料の綏通碑拓本1件2点）、佐賀硝子（佐賀硝子31件76点、長崎硝子5件11点ほか全40件92点）を中心紹介した。

陶磁器類は、「葉隱の美・肥前刀」に合わせて華やかで格調のある鍋島藩窯様式磁器を展示したほか、「県内所在の狩野派絵画」展の期間には、古唐津の陶器から磁器搖籃期の天狗谷出土品、古伊万里様式の輸出品ガリポット、柿右衛門様式の色絵が繊細な輸出用飾り瓶に対する日本の風俗図の徳利など、徳利尽くしを楽しんだ。

雛の季節には、佐賀の旧家野中鳥犀園御所蔵の雛飾り一式を初公開、江戸時代の古典的な享保雛二組に御道具類、厨道具をそろえての見事なしつらえである。あわせて初公開の「銀細工雛道具」は大名家伝世の品で、明治時代に隆盛をきわめた細密工芸の精緻な技は評判を呼んだ。

第1期：4月20日～5月27日

「平成元年度 博物館新収蔵品展」

- ・小城・森永家寄贈資料より：陶磁器・漆器
 - 染付唐獅子牡丹文大皿 伊万里
 - 染錦菊牡丹鳳凰図大鉢 古伊万里様式
 - 染錦花籠図皿 古伊万里様式
 - 染付鯉図変皿 伊万里
 - 染付小鳥図六角皿 伊万里
 - 染付花鳥図皿 伊万里
 - 染付花鳥図徳利 伊万里
 - 染錦祥瑞捨文鉢 古伊万里様式写
 - 染錦飛龍菊唐花文輪花鉢 古伊万里様式写
 - 蒔絵笹蔓草文手焙台
- ・寄託資料より：浮世絵・陶磁器・硝子
 - 団七於梶図 歌川國芳
 - 東趣江戸橋図 初代安藤広重
 - 江戸名所吉原夜桜図 初代安藤広重

上州九十九里浜地引網図 昇亭北寿
江之嶋七里ヶ濱図 昇亭北寿
東京雪景図 小林清親
絵唐津輪文沓茶碗 松浦古唐津系
色絵金襴手熨斗菊文徳利 薩摩・磯御庭焼
長崎硝子 瑞瑠色香合
薩摩切子 紅色茶入

- ・鍋島綏通・佐賀硝子ほか購入・寄贈資料
 - 鍋島綏通 蟹牡丹文 明治一大正期
 - 鍋島綏通 蟹牡丹文 昭和10年代
 - 堺綏通 市松に菊十字文 昭和10年代（寄贈）
 - 佐賀硝子 酒瓶（ボトル） 佐賀・精焼社
 - 古裂帖「こぎれ四百姿一縷樓達の遍歴一」

第2期：5月31日～7月22日

「鍋島綏通—いまむかしー」

- ・綏通の歴史
 - 綏通碑拓本・表裏 1884 佐賀市・苗運寺
 - 鍋島綏通 蟹牡丹唐草文 1889 若宮神社
- ・古典的な具象文様
 - 鍋島綏通 牡丹唐草文
 - 鍋島綏通 牡丹唐草文（個人蔵）
 - 鍋島綏通 唐草花文（二疊）
 - 鍋島綏通 唐草花文（個人蔵）
 - 鍋島綏通 唐草花文（個人蔵）
 - 鍋島綏通 唐草芍薬文
 - 鍋島綏通 唐草芍薬文（三疊・個人蔵）
- ・数少ない文様・珍しい色調
 - 鍋島綏通 牡丹雷文（個人蔵）
 - 鍋島綏通 唐草花文
 - 鍋島綏通 蟹牡丹文（個人蔵）
 - 鍋島綏通 牡丹唐草文（個人蔵）
 - 鍋島綏通 卍に雲唐花文（個人蔵）
 - 鍋島綏通 雲に雷文（小紋物・個人蔵）
 - 鍋島綏通 牡丹唐花文（個人蔵）
- ・図案化された蟹牡丹文
 - 鍋島綏通 蟹牡丹文（1対・個人蔵）
 - 鍋島綏通 蟹牡丹文（1対・個人蔵）
 - 鍋島綏通 蟹牡丹文（8枚のうち2・個人蔵）
 - 鍋島綏通 蟹牡丹文（個人蔵）
 - 鍋島綏通 蟹牡丹文
 - 鍋島綏通 蟹牡丹文（個人蔵）
 - 鍋島綏通 蟹牡丹文（個人蔵）
 - 鍋島綏通 蟹牡丹文 昭和10年代（1対）
 - 鍋島綏通 蟹牡丹文 昭和10年代（個人蔵）
 - 鍋島綏通 蟹牡丹文 昭和10年代（個人蔵）

常設展

- ・牡丹唐草文から織毛糸の短い綾通へ
 - 鍋島綾通 蟹牡丹唐草文
 - 鍋島綾通 蟹牡丹唐草文（1対・個人蔵）
 - 鍋島綾通 蟹牡丹唐草文
 - 鍋島綾通 蟹牡丹唐草文（個人蔵）
 - 鍋島綾通 蟹牡丹唐草文（小敷物・個人蔵）
 - 鍋島綾通 無地に縁雷文（個人蔵）
 - 鍋島綾通 蓼牡丹唐草文（個人蔵）
 - 鍋島綾通 唐草花文（個人蔵）
 - 鍋島綾通 幾何花文（5枚の内1・個人蔵）
 - ・昭和の大作
 - 鍋島綾通 蟹牡丹雲形文 昭和12年頃（三疊半）
 - 鍋島綾通 蟹牡丹蝶文 昭和10年代（四疊半）
 - 鍋島綾通 蟹牡丹文 昭和17年頃（八疊・寄託）
 - ・大正・昭和のモダンデザイン
 - 鍋島綾通 亀甲に蝶花文 大正時代
 - 鍋島綾通 亀甲に蝶花文 大正時代（個人蔵）
 - 鍋島綾通 蝶唐花文 大正時代
 - 鍋島綾通 水辺に蝶文 昭和前期（個人蔵）
 - 鍋島綾通 幾何学文 昭和15年頃（四疊半）
 - 鍋島綾通 市松に卍十字文 大正時代（個人蔵）
 - 鍋島綾通 幾何学文 大正時代
 - 鍋島綾通 利剣文 大正時代（個人蔵）
 - 鍋島綾通 利剣文 大正時代（1対・個人蔵）
 - 鍋島綾通 利剣文 大正時代（個人蔵）
 - ・現代の綾通：触れてみてください
 - 鍋島綾通 蟹牡丹文 昭和60年・吉島敷物製
 - 鍋島綾通 蓼牡丹唐草文昭和60年吉島敷物製
 - 鍋島綾通 松梅文 平成1年
鈴田照次デザイン・吉島敷物製
- 佐賀硝子 金魚鉢
 佐賀硝子 フラスコ
 佐賀硝子 容器・一对（木下氏寄贈）
 佐賀硝子 水注（木下氏寄贈）
 佐賀硝子 水注（大園氏寄贈）
 佐賀硝子 面取コップ（個人蔵）
 佐賀硝子 面取コップ（個人蔵）
 佐賀硝子 三脚付鉢（鍋島報效会）
 佐賀硝子 面取コップ（鍋島報效会）
 佐賀硝子 脚付グラス・3客（個人蔵）
 佐賀硝子 脚付グラス（個人蔵）
 佐賀硝子 脚付グラス・口紅（個人蔵）
 佐賀硝子 酒瓶・壺（木下氏寄贈）
 佐賀硝子 酒瓶（木下氏寄贈）
 佐賀硝子 脚付グラス・一对（個人蔵）
 佐賀硝子 脚付グラス（個人蔵）
 佐賀硝子 脚付グラス大・小（個人蔵）
 佐賀硝子 脚付グラス大・小（個人蔵）
 佐賀硝子 酒瓶・一对
 佐賀硝子 脚付グラス・17客 1964（個人蔵）
- ・長崎硝子
 長崎硝子 コップ・6客（個人蔵）
 長崎硝子 草花文コップ（個人蔵）
 長崎硝子 水注（大園氏寄贈）
 長崎硝子 瑞璃色香合（寄託）
 長崎硝子 瑞璃・黄コップ（個人蔵）
- ・その他のガラス
 透明硝子 コップ（個人蔵）
 透明硝子 コップ（個人蔵）
 透明硝子 朝顔形コップ・一对（個人蔵）
 透明硝子 脚付グラス（個人蔵）

第3期：7月26日～9月16日

「びいどろ・ぎやまん・がらす 佐賀硝子と長崎硝子」

- ・佐賀硝子：鍋島報效会寄託資料を中心に
 - 佐賀硝子 金魚鉢・一对（鍋島報效会）
 - 佐賀硝子 広口大瓶・一对（鍋島報效会）
 - 佐賀硝子 広口大瓶・大小（鍋島報效会）
 - 佐賀硝子 ランプ火屋（鍋島報效会）
 - 佐賀硝子 葉瓶・3種（鍋島報效会）
 - 佐賀硝子 葉瓶・3点（鍋島報效会）
 - 佐賀硝子 葉瓶・2点（鍋島報效会）
 - 佐賀硝子 長頸瓶（鍋島報效会）
 - 佐賀硝子 銘酒瓶（鍋島報效会）
 - 佐賀硝子 箸・13組（鍋島報效会）
 - 佐賀硝子 金魚鉢

第4期：12月1日～1月15日

- 「菜穂の美・肥前刀」の展示に併設：6件10点
- ・鍋島藩窯様式磁器
 - 色絵菱更紗文皿
 - 色絵花更紗文皿
 - 染付青磁扇文皿
 - 色絵牡丹唐草文皿
 - 色絵唐花文向付（5客）
 - 色絵芥子文皿

第5期：1月19日～2月24日

- 「県内所在の狩野派絵画」に併設
- ・館蔵・寄託の陶磁器徳利10点とパネル1点
褐釉船徳利 伊万里・藤ノ川内窯

二彩唐津松絵徳利 武雄・弓野山窯
 青磁菊花文瓶 有田・天狗谷窯（寄託）
 染付松梅文瓶 有田・天狗谷窯（寄託）
 色絵傘美人図瓶 古伊万里様式・ヨーロッパ上
 紋
 色絵風俗図徳利 伊万里
 色絵菊牡丹図面取徳利 柿右衛門様式
 染付竹雀図徳利 柿右衛門様式
 色絵龍唐草文腰板パネル 柿右衛門様式・1677

第6期：2月28日～4月14日

「雛人形」

・雛人形ほか

古川松根筆・鍋島直正讚 立雛図 1幅
 古今雛・1対 明治時代（個人蔵）
 古今雛・1対 大正時代（個人蔵）
 古今雛・1式 昭和初期（個人蔵）
 享保雛・1式 江戸後期（佐賀市・野中鳥犀園）
 銀細工 雛道具・1式 明治時代（個人蔵）
 牙彫 雛祭り・1軸 明治時代（個人蔵）

・陶磁器：人形を中心に

加彩唐俑・1対 唐時代（河村竜夫氏寄贈）
 色絵婦人像・1軸 柿右衛門様式（九州陶磁文化館蔵）
 染錦婦人像・1軸 伊万里
 色絵婦人像・1軸 伊万里
 柿右衛門様式色絵磁器とその倣製品・13点
 染付青磁桃文皿・1枚 鍋島藩窯様式（九州陶磁文化館蔵）
 染付桃花文皿・1枚 鍋島藩窯様式（九州陶磁文化館蔵）
 色絵桜樹文輪花鉢・1口 柿右衛門様式
 染錦御所車風俗図皿・1枚 古伊万里様式
 染錦桜花唐子文手付瓶・1対 古伊万里様式
 染錦風俗図面取壺・1口 古伊万里様式（寄託）
 染錦美人楼閣図大皿・1枚 古伊万里様式

・婚礼道具より漆器類など

黄緑地花鳥翫葉紋小袖・1振（増田タケ氏寄贈）
 扇面散文蒔絵広蓋・1組（寄託）
 莓草花翫葉紋蒔絵鏡箱・柄鏡・1組（*）
 莓草花翫葉紋蒔絵鏡掛・1台（*）
 楼閣蒔絵源氏箱・1式（寄託）
 呂色小城翫葉紋蒔絵貝桶・貝覆・1対（*）
 松竹蒔絵貝桶・貝覆・1組（寄託）
 春草蒔絵煙草盆・1式 1813（*）
 花鳥図高蒔絵硯箱・1台（*）
 蓬萊蒔絵香箱・1式（寄託）
 莓草花翫葉紋蒔絵棚・1台（*）
 王子瀧乃川図蒔絵硯箱・1式（寄託）

梨子地秋草蒔絵手箱・1口（*）
 梨子地花翫葉紋散蒔絵香箱・1式（*）
 花翫葉紋散蒔絵箱・歌加留多・1組（*）
 （*）は鹿島鍋島家寄贈

VI 近世絵画（3号展示室）

雲谷派の祖雲谷等顔、京狩野の代表的な画家狩野山雪は肥前の出身である。彼らの肥前領内での活動は知られていないものの、桃山から江戸前期にかけて、肥前にゆかりのある比較的多くの画人の存在が確認できる。その後、肥前のうち長崎においては、中国やオランダとの交渉により黄檗派・南蘋派・南画派・洋風画派などが生まれ、日本絵画史上大きな影響を及ぼしたといえる。一方、佐賀藩・唐津藩における画壇は、必ずしも活発ではなく、主導的立場にあるべき御用絵師にしても、その系譜は断続的であった。しかし、幕末頃には、佐賀藩では大和絵・南画・写生画・浮世絵なども制作されるようになり、また西洋文化の積極的な移入により西洋絵画に対する理解も進み、日本での最初期の本格的洋画家百武兼行が登場する土壤が築かれた。

第1期常設展（7月26日～9月16日）

山水図 1幅 広渡雪山 17世紀・江戸 館蔵
 菊図 1幅 熊斐 18世紀・江戸 館蔵
 李白觀瀑図 1幅 天龍道人 18世紀・江戸 館蔵
 春草・秋草図 2幅 古川松根 19世紀・江戸
 館蔵
 寿星図 1幅 草場佩川 1859・安政6 館蔵
 浜辺群鶴図屏風 6曲1隻 高柳快堂 1849・嘉永2
 館蔵

第2期（12月1日～1月15日）

獅子図屏風 6曲1双 長沢蘆雪 18世紀・江戸
 館蔵
 新嘗祭図額 1面 住吉弘貢 19世紀・江戸 館蔵
 新嘗祭図額資料 1巻 峰喬 1862・文久2 館蔵
 浅草年の市・正月図 2幅 歌川豊国
 19世紀・江戸 鍋島報效会蔵
 宝船図 1幅 古川松根 1861・文久元 館蔵

第3期（1月19日～2月24日）

「県内所在の狩野派絵画展」
 狩野派は、室町後期（15世紀中頃）から明治初期（20世紀初頭）にわたり活躍した日本最大の画派。正信を始祖とし、桃山から江戸前期にかけて元信、

常設展

永徳、山楽、山雪、探幽といった巨匠が出、また、江戸期を通して狩野派は幕府の御用絵師、あるいは各藩の御用絵師となり、狩野派の絵画は広く浸透していった。展示では、県内に所蔵される狩野派の作品を中心に、肥前の狩野派画人の作品を含め、23作家の作品、計23点を紹介。

山水図 狩野季政 1幅 16~17世紀・桃山 寄託
龍虎図 狩野山雪 2幅 17世紀・江戸 個人
張公藝図 葉山朝湖 1幅 17世紀・江戸 個人
寿老人図 狩野宗俊 1幅 17世紀・江戸 鍋島報
效会

黄石公図 狩野有信 1幅 17世紀・江戸 鍋島報
效会
寿老人・枯木に鳥図 狩野尚信 3幅 17世紀・江戸
個人
書画貼交草花図屏風 広渡心海他 6曲1隻
17世紀・江戸 寄託

白衣觀音図 狩野益信 1幅 17世紀・江戸個人
寿老人・松・竹図 狩野常信 3幅
17~18世紀・江戸 個人
若松に鶴図屏風 狩野主信 6曲1双
18世紀・江戸 館蔵
春秋孔雀図屏風 狩野高信 6曲1双
18世紀・江戸 館蔵
枯木に鳶鷲図 英一蝶 1幅 18世紀・江戸
個人

寿老人・菊花図 狩野養川院 3幅
18~19世紀・江戸 鍋島報效会

秋野・千鳥図 狩野伊川院、晴川院 2幅
19世紀・江戸 個人
臺鳩図 狩野則信 1幅 19世紀・江戸 寄託
騎龍觀音図 広渡心海 1幅 17世紀・江戸
鍋島報效会

龍天善神・白山権現図 大木英鉄 2幅
17世紀・江戸 高伝寺
白衣觀音図 成富独幽 1幅 17世紀・江戸
鍋島報效会

人物図 鍋島綱茂 1幅 17世紀・江戸 館蔵
松に鶴図 三浦子梁 1幅 18世紀・江戸
鍋島報效会

竹に虎図 橫尾清幽斎 1幅
18~19世紀・江戸 鍋島報效会
武内宿祢図 周幽斎夏龍 1幅 1805・文化2
個人

雪中鶯図 狩野匡信 1幅 18~19世紀・江戸
館蔵

第4期（2月28日~4月14日）

耕織図屏風 6曲1双 周幽斎夏龍 19世紀・江戸
館蔵

粟穂に吠々鳥図 1幅 天龍道人
18世紀・江戸 館蔵
竹図 1幅 草場佩川 1863・文久3 館蔵
郭子儀祝賀図 1幅 古川松根 1860・萬延1
館蔵

VII 近代の書（3号展示室）

近代は、書においても芸術性の追求が盛んに行われた時期である。本県関係では、明治の元勲副島種臣（滄海）や、当時「銀座の書聖」と呼ばれた中林梧竹、唐津藩医の子として江戸で生まれた西川春洞が能書家として有名である。

第1期（7月26日~9月16日）

「宏濟閣」額 1面 副島種臣 19世紀・明治
寄託

「萬年和平」 1幅 中林梧竹 19世紀・明治
鍋島報效会

鄭成功詩額 1面 副島種臣 1885・明治18
寄託

「議事堂」額 1面 副島種臣 1886・明治19
佐賀県議会

「之子干帰宜其家人」額 1面 副島種臣
1904・明治37 館蔵

七言絶句 2幅 副島種臣 19世紀・明治 館蔵
周秦古器銘評語屏風 2曲1隻 中林梧竹 寄託

五言絶句 1幅 中林梧竹 19世紀・明治 館蔵
五言絶句 1幅 中林梧竹 1907・明治40 館蔵

虹図 4曲1隻 中林梧竹 20世紀・明治 寄託
(中林梧竹石碑拓本)

多久茂族碑 1888・明治21 多久神社
江越礼太碑 1898・明治31 陶山神社

江口保定碑 1906・明治39 大雲寺
谷口藍田碑 1906・明治39 旭ヶ丘谷園

岡山神社鳥居銘 1888・明治21 岡山神社
久本家墓地門柱銘 1884・明治17 正満寺

岡山神社燈籠銘 1888・明治21 岡山神社
勝妙寺山門銘 1895・明治28 勝妙寺

中林経緯夫妻墓碑 19世紀初・明治30代後半
星巖寺

副島種臣墓銘 19世紀初・明治40年頃 高伝寺
桜岡公園碑 制作年不詳 桜岡公園

梧竹退筆塚台石銘 1913・大正2 桜岡公園
 梧竹退筆塚觀音祠堂台石銘 1872・明治5
 桜岡公園

第2期(12月1日～1月15日)
 五言絶句二首屏風 2曲1隻 中林梧竹
 19世紀・明治 寄託
 李白詩「登金陵鳳凰臺」屏風 6曲1隻 副島種臣
 1892・明治25 寄託
 「宏濟閣」額 1面 副島種臣 19世紀・明治
 寄託

第4期(2月28日～4月14日)
 桜花行 1幅 副島種臣 19-20世紀・明治 館蔵
 素描聯 2幅 中林梧竹 20世紀・明治 寄託

- ④ 玄海の捕鯨
 - 明治以降の捕鯨用具
 - 肥前國產物図考・捕鯨の図写真パネル
 - 勢子船・双海船模型
- ⑤ 相知町横枕の大甕づくり(韓国の製陶用具)
- ⑥ 肥前配置売薬関係資料
- ⑦ 手すき和紙製作用具

なお下記により特別展示を行なった。
 佐賀の民俗(1) 山のなりわい 4月1日～7月22日
 " (2) 有明海の漁撈絵巻
 7月26日～9月16日
 " (3) 手わざの美・佐賀の職人たち
 12月1日～3月31日

VIII 郷土の民俗(大展示室)

郷土の民俗では、歴史を民俗学的視野から概観できるよう試みている。

とくに、国的重要有形民俗文化財に指定されている有明海漁撈具は内容・量ともに充実しており幕末から明治初頭にかけての作と思われる「有明海漁撈実況図」(松田房晃・全23図)と共に、有明海の漁撈習俗を十分に知ることができる。また有明海関係の資料として昭和42年7月1日の狩猟法改正の時期まで使用されていた鴨銃とその弾丸製作工程は、当時の有明海における狩猟の状況を知ることが可能と言えよう。

農業関係の資料としては、明治・大正年間の佐賀のクリーク(堀)農業を特徴づける各種農具があり、佐賀農業の発展を願う農民の強い意志がうかがわれ、様々な工夫がなされていることも知ることができる。

その他、鳥栖市田代を中心とした製薬・売薬関係資料、東松浦郡相知町横枕の大甕製作用具、小川島での捕鯨を中心とした玄海の漁撈具等が、佐賀の民俗を特徴づけている。

- ① 佐賀のすまい
 - 民家模型(クド造り・ジョウゴ造り)
 - 収納家具 ○あかり
- ② 佐賀農業の歩み
 - 耕作用具 ○泥土揚げ用具 ○管理用具
 - 収穫用具 ○脱穀調整用具 ○薬加工用具
- ③ 有明海の漁業
 - 干潟漁業と用具 ○貝養殖と採捕用具
 - 鴨銃 ○船上で使う生活用具

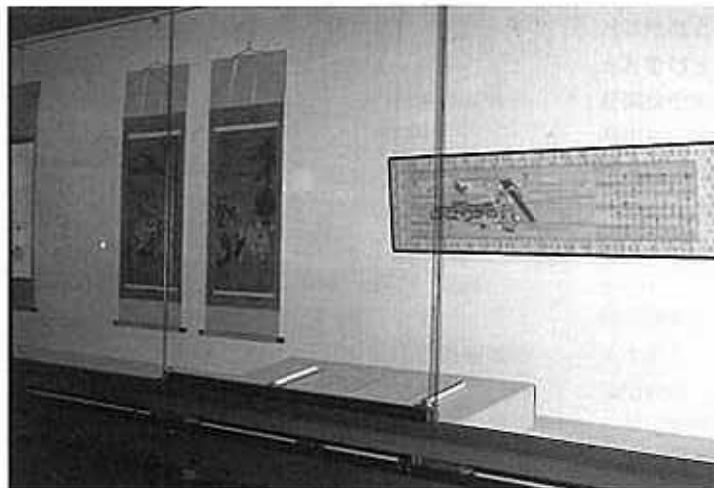
小さな展覧会（博物館3号展示室ほか）

展覧会名	会期
佐賀の民俗1 —山のなりわい—	4月1日～7月22日
鍋島綾通・いまむかし 絵図にみる幕末維新の佐賀 子供のための自然史 —具類その色と形の変化—	5月31日～7月22日 6月20日～7月15日 7月20日～9月30日
佐賀の民俗2 —有明海の漁撈絵巻—	7月26日～9月16日
葉隠の美・肥前刀 佐賀の民俗3 —手わざの美・佐賀の職人—	12月1日～1月15日 12月1日～3月31日
県内所在の狩野派絵画 煮る・炊く・蒸す —鍋・釜の歴史—	1月19日～2月24日 1月22日～2月24日
龍造寺氏関係資料	3月5日～4月14日

展示風景



展示風景



2. 平成2年度 特別企画

佐賀県立博物館開館20周年記念 佐賀の名宝—いろとかたち一展

主 催 佐賀県教育委員会・佐賀県立博物館
会 期 平成2年10月6日(土)～11月4日(日)
会 場 佐賀県立博物館1号・2号・3号展示室
観覧料 大人 510円(410円)
大・高生 250円(150円)
中・小生 150円(100円)
() 内は20名以上の団体料金

図録 B5判アート紙168頁(全カラー)

入館者数 5,725名

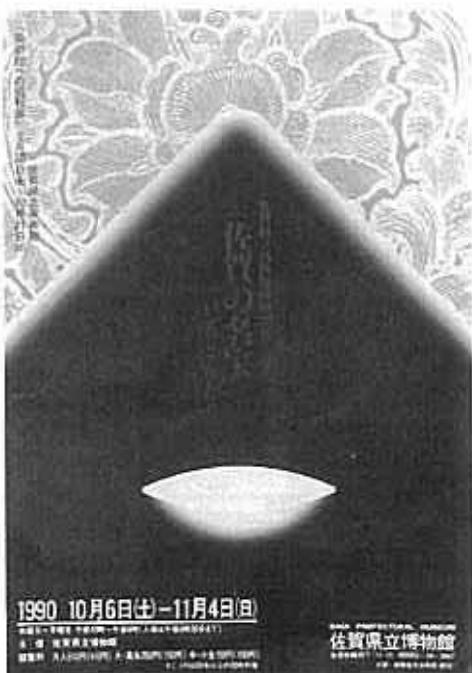
展示概要

佐賀県立博物館は昭和45年に開館して20周年を迎えた。この間、幅広い各分野の中から各種の調査や展示などを通じて県内外の資料の紹介に務めてきた。これらを集大成する意味を兼ねて開館20周年記念特別企画として、佐賀地方ゆかりの国宝・重要文化財、並びに県指定文化財等の中から、特に「いろ」と「かたち」に優れたものを厳選して展示した。

展示構成

考古
書跡
彫刻
絵画
工芸品

記念講演会3回開催(22頁参照)



ポスター



図録

出品目録

●国宝 ◎重要文化財 ○佐賀県重要文化財

番号・指定	名 称	員数	時 代	所蔵・保管者
	考 古			
1	唐津市宇木汲田遺跡出土品 ①細形銅劍 ②細形銅矛 ③細形銅戈 ④硬玉製勾玉	1口 1口 1口 4個	弥生 紀元前1世紀	京都大学
2	神崎町・三田川町吉野ヶ里遺跡出土品 ①有柄細形銅劍 ②細形銅劍 ③銅製把頭飾 ④ガラス製管玉	1口 4口 1個 48個	弥生 紀元前1世紀	佐賀県教育委員会
3◎	東脊振村・上峰村二塚山遺跡出土品 ①連弧文絜清白鏡 ②連弧文昭明鏡 ③波文緣獸帶鏡 ④ガラス製管玉 ⑤ガラス製小玉 ⑥素環頭鉄刀 ⑦鉄 剣 ⑧鉄 矛	1面 1面 1面 3連 10連 1口 1口 1口	弥生 1~2世紀	佐賀県教育委員会
4◎	唐津市桜馬場遺跡出土品 ①流雲文緣方格規矩四神鏡 ②素文緣方格規矩渦文鏡 ③巴形銅器 ④有鉤銅釧	1面 1面 3個 26個	弥生 1~2世紀	佐賀県立博物館
5○	東脊振村三津永田遺跡出土品 ①流雲文緣獸帶鏡 ②連弧文昭明鏡 ③四蛇鏡 ④素環頭鉄刀	1面 1面 1面 1口	弥生 1~2世紀	佐賀県教育委員会ほか (佐賀県立博物館・祐徳博物館保管)
6	銅 釧 唐津市千々賀遺跡出土	8個	弥生 1~2世紀	大阪市立博物館
7○	銅 釧 小城町布施ヶ里遺跡出土	3個	弥生 1~2世紀	小城町教育委員会
8○	大和町惣座遺跡出土品 ①銀製指輪 ②ガラス製小玉	3個 3連	弥生 1~2世紀	大和町教育委員会
9◎	中広形銅矛 北茂安町検見谷遺跡出土	12口	弥生 1~2世紀	文化庁
10	浜玉町谷口古墳出土品 ①三角縁三神三獸鏡 ②位至三公双獸鏡 ③変形四獸鏡 ④石 釧 ⑤硬玉製勾玉 ⑥碧玉製管玉	3面 1面 1面 11個 5個 2連	古墳 4~5世紀	東京国立博物館

番号・指定	名 称	員数	時 代	所蔵・保管者
11	三角縁三神三獸鏡 伊万里市塙路寺古墳出土	1面	古墳 4~5世紀	伊万里市教育委員会
12○	佐賀市熊本山古墳出土品 ①四獸鏡 ②紡錘車形石製品 ③硬玉製勾玉 ④メノウ製勾玉 ⑤碧玉製管玉 ⑥ガラス製小玉 ⑦鉄 剣 ⑧鉄 刀 ⑨鉄 鍔	1面 2個 1個 1個 18個 1連 2口 1口 2個	古墳 4~5世紀	佐賀市教育委員会
13○	佐賀市関行丸古墳出土品 ①三環鈴 ②ガラス製小玉	1個 3連	古墳 5~6世紀	佐賀県立博物館
14○	佐賀市花納丸古墳出土品 附 出土の記録 ①花納丸古墳ノ記 ②変形文鏡 ③三環鈴 ④碧玉製管玉	1巻 1面 1個 2連	古墳 5~6世紀	佐賀県立博物館
15	浜玉町南山玉島古墳出土品 ①金製垂飾付耳飾 ②ガラス製勾玉 ③メノウ製勾玉 ④水晶製勾玉 ⑤水晶製管玉 ⑥銀製空玉 ⑦ガラス製小玉	1対 1個 1個 2個 5個 4個 1連	古墳 6世紀	東京国立博物館
16	銅 鍔 (承盤付) 唐津市島田塙古墳出土	1口	古墳 6世紀	東京国立博物館
	書跡			
17●	催馬楽譜	1冊	平安 12世紀	鍋島報效会
18○	東遊歌神楽歌	1巻	平安 12世紀	鍋島報效会
19○	梵網経	1巻	南北朝 天授4年(1378)	三田川町・東妙寺
20	法華経	7帖	高麗 至元6年(1340)	鍋島報效会
	彫刻			
21○	誕生仏	1軀	奈良 8世紀	武雄市・広福護国禅寺
22○	薬師如来立像	1軀	平安 承安2年(1172)	北方町・歡喜寺
23○	菩薩形坐像	1軀	高麗 13世紀	鹿島市・普明寺
24○	聖観音立像	1軀	平安 10~11世紀	三田川町・東妙寺
25○	薬師如来坐像	1軀	平安 12世紀	玄海町・東光寺
26○	帝釈天立像	1軀	平安 11世紀	牛津町・常福寺
27○	薬師如来坐像	1軀	平安 12世紀	牛津町・常福寺
28○	不動明王および二童子像	3軀	平安 12世紀	嬉野町・永寿寺
29○	四天王立像	4軀	鎌倉 14世紀	武雄市・広福護国禅寺

番号・指紋	名 称	員数	時 代	所蔵・保管者
30○	普賢延命菩薩騎象像	1 軀	鎌倉 正中3年(1326)	久保泉町・竜田寺
31○	地蔵菩薩半跏像	1 軀	鎌倉 13~14世紀	小城町・円明寺
32○	円鑑禪師像	1 軀	鎌倉 正安2年(1300)	大和町・高城寺
	絵画			
33○	両界曼茶羅	2 幅	鎌倉 13世紀	多久市・妙覚寺
34	金剛界種字曼茶羅	1 面	南北朝 14世紀	三田川町・石塔院
35○	八字文殊菩薩騎獅像	1 幅	南北朝 14世紀	鹿島市・誕生院
36○	普賢延命菩薩騎象像	1 幅	南北朝 14世紀	大和町・実相院
37	愛染明王騎獅像	1 幅	室町 16世紀	大和町・実相院
38○	楊柳観音像	1 幅	高麗 至大3年(1310)	唐津市・鏡神社
39○	阿弥陀八大菩薩図	1 幅	高麗 13世紀	武雄市・広福護国禅寺
40○	善財童子歴参図	1 幅	李朝 15世紀	武雄市・広福護国禅寺
41○	楊柳観音図	1 幅	李朝 15~16世紀	武雄市・広福護国禅寺
42○	枳迦三尊および比丘像	1 幅	李朝 15~16世紀	武雄市・広福護国禅寺
43○	見心来復像	1 面	元 至正25年(1365) 贊	鳥栖市・萬歳寺
44○	以亨得謙像	1 幅	元~明 建文4年(1402) 贊	鳥栖市・萬歳寺
45	聖一国師像	1 幅	室町 15世紀	武雄市・広福護国禅寺
46	閑室元信像	1 幅	桃山 慶長17年(1612) 贊	小城町・三岳寺
47○	東妙寺並妙法寺境内絵図	1 幅	鎌倉 14世紀	三田川町・東妙寺
48○	福満寺古図	1 幅	室町 15世紀	佐賀市・福満寺
49	蓮に鷲図(等禪)	2 幅	室町 16世紀	大和町・萬寿寺
50	吉野山図屏風	1 双	桃山 16~17世紀	鍋島報效会
51○	肥前名護屋城図屏風(伝狩野光信)	1 隻	桃山 16~17世紀	佐賀県立博物館
52	金山寺・西湖図屏風(広渡雪山)	1 双	江戸 17世紀	鍋島報效会他
53	喜報三元図(熊斐)	1 幅	江戸 18世紀	
54	梅に鷲図(天龍道人)	1 幅	江戸 18世紀	佐賀県立博物館
55	美人図(歌川豊国)	1 幅	江戸 寛政10年(1798) 贊	
56	山水図襖(谷文晁)	12面	江戸 文政3年(1820)	
57	鍾馗に鬼図(柴田是真)	1 幅	江戸~明治 19世紀	鍋島報效会
58	小川島捕鯨図屏風(森一鳳)	1 双	江戸~明治 19世紀	
59	肥前国産物図考(木崎攸々軒入道盛標)	8 帖	江戸 18世紀	佐賀県立博物館
60	有明海漁業実況図(松田房晃)	1 卷	江戸~明治 19世紀	
	工芸品			
61○	経筒(大谷口仏法堤経塚)	1 合	平安 嘉保3年(1096)	佐賀県立博物館
62○	経筒(せせり谷経塚)	1 合	平安 天永4年(1113)	佐賀県立博物館
63○	経筒(山崎谷経塚)	1 合	平安 天治元年(1124)	佐賀県立博物館
64	経筒(脊振山経塚)	1 合	平安 康治元年(1142)	佐賀県立博物館
65○	鰐口	1 口	室町 康正3年(1457)	有明海・東楽寺
66○	仏具 ①戒体箱 ②居箱 ③香炉箱 ④如意	1 合 1 口 1 口 1 柄	室町 天文元年(1532)	大和町・実相院

番号・指定	名 称	員数	時 代	所蔵・保管者
67	五鈷四天王鉢	1 口	唐 9世紀	鹿島市・誕生院
68○	銅鐘（肥前鐘）	1 口	南北朝 永和2年(1376)	相知町・医王寺
69○	銅鐘（朝鮮鐘）	1 口	高麗 太平6年(1026)	唐津市・恵日寺
70○	太刀 朱銘 國行	1 口	鎌倉 13世紀	鍋島報效会
71○	太刀 朱銘 来國光	1 口	鎌倉 14世紀	鍋島報效会
72○	刀 銘 正平十□肥州末貞	1 口	南北朝 14世紀	鍋島報效会
73	槍 銘 肥州神崎住小河兵部添源盛吉作 八月 日	1 口	桃山 16世紀	
74	刀 銘 肥前國忠吉 慶長五年八月吉日	1 口	江戸 庆長5年(1600)	東京国立博物館
75○	刀 銘 肥前國藤原忠廣 寛永七年八月吉日	1 口	江戸 寛永7年(1630)	鍋島報效会
76○	短刀 銘 肥前國住藤原忠廣 寛永八年八月日	1 口	江戸 寛永8年(1631)	佐嘉神社
77○	濤・日輪文打出五枚胴具足	1 領	江戸 享保3年(1718)	佐賀県立博物館
78○	絵唐津松樹文大皿	1 枚	江戸 17世紀	梅澤記念館
79○	色絵花鳥文大鉢 伝柿右衛門作	1 口	江戸 17世紀	東京国立博物館
80	染付草花文共蓋深鉢	1 合	江戸 17世紀	梅澤記念館
81○	染付白鷺図三脚皿	1 枚	江戸 17世紀	佐賀県立九州陶磁文化館
82	染付白鷺図皿	1 枚	江戸 17世紀	
83○	陶彫赤絵狛犬	1 軸	江戸 17~18世紀	有田陶磁美術館
84○	染付有田職人尽絵図大皿	1 枚	江戸 19世紀	有田陶磁美術館
85○	染付鍋島藩窯絵図大皿	1 枚	江戸 19世紀	佐賀県立博物館
86	立葵蒔絵螺鈿箒（鳳凰箒）	1 張	桃山 天正5年(1577)	多久市教育委員会
87	能面	3 面	桃山～江戸	武雄市教育委員会
88	能面	5 面	室町～江戸	
89	鼻高面	2 面	鎌倉 正安2年(1300)	呼子町・田島神社

3. 企画展ならびにその他の展覧会 平成2年度

展 覧 会 名	会 期	主 催
第40回 佐賀県児童生徒理科作品展	9/19~9/26	佐賀県理科教育振興会 佐賀県立博物館
佐賀の名宝-いろとかたち-展	10/6~11/4	佐賀県立博物館
第40回 佐賀県美術展覧会	11/17~11/25	佐賀県教育庁文化課 佐賀県立博物館・佐賀県立美術館

4. 博物館観覧状況調べ 平成2年度

常 設 展	個 人			団 体			観 覧
	大 人	大・高	中・小	大 人	大・高	中・小	
佐賀県の歴史と文化	5,612	386	838	1,509	94	64	3,246
〃	3,932	287	444	166		40	222
小 計 (1)	9,544	673	1,282	1,675	94	104	3,468

企 画 展	個 人			団 体			観 覧
	大 人	大・高	中・小	大 人	大・高	中・小	
佐賀県立博物館開館20周年記念 佐賀の名宝-いろとかたち-	2,733	127	183	285	77	853	115

その他の展覧会	個 人			団 体			観 覧
	大 人	大・高	中・小	大 人	大・高	中・小	
第40回佐賀県児童理科作品展	1,083	71	896	27		1,247	
合 計 (1)+(2)+(3)	13,360	871	2,361	1,987	171	2,204	3,583

展 示 概 要		会 場
小・中・高校生の理科研究発表約300点。		博物館3号
佐賀ゆかりの国宝・重要文化財等88件		博物館1・2・3号
日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真、デザイン約450点。		博物館2・3号 (美術館2・3・4号)

料 免 除 者		招待者	優待者	合 計	開館日数	一日平均	期 間	備 考
大・高	中・小							
810	1,023	242	84	13,908	180	77	4/1~10/28	
47	238	59	70	5,505	97	57	11/30~3/31	
857	1,261	301	154	19,413	277	70		

料 免 除 者		招待者	優待者	合 計	開館日数	一日平均	期 間	備 考
大・高	中・小							
		1,332	20	5,725	26	220	10/6~11/4	小計(2)

料 免 除 者		招待者	優待者	合 計	開館日数	一日平均	期 間	備 考
大・高	中・小							
				3,324	8	416	9/19~9/26	小計(3)
857	1,261	1,633	174	28,462	311	92		

5. 普及活動

(1) 資料の刊行

博物館美術館館報

年4回、各号8ページで800部発行。

全国の主要博物館、美術館ならびに研究機関、県内の教育機関、社会教育団体に配布。企画展、新収蔵品展の案内から資料紹介までの内容は下記のとおりです。

No89 平成2年6月1日

*表紙「館蔵のオキナエビスガイ」

*資料紹介 松尾仁志氏寄贈の貝類標本(その1)

*古代木器の保存処理(1)

*〈講座ノート〉絵図にみる幕末期の佐賀の科学技術

*行事のお知らせ・人事異動など

No90 平成2年10月1日

*表紙「楊柳観音像」

*誌上展覧会「佐賀の名宝—いろとかたち—」展

*行事のお知らせ

No91 平成3年2月28日

*表紙「張公藝図」

*資料紹介「パリ万国博覧会から深川長右衛門が持ち帰った品物」

*調査ノート「木綿織り綾通さまざま—赤穂・堺綾通紀行—」

*研究ノート「佐賀藩初期の絵師」

No92 平成3年3月31日

*表紙「石炭船(上荷船)」

*研究ノート 美術用語としての『風景画』

*調査ノート 石炭船の時代—六角川の風景—

*講演要旨 生活のよろこびとデザイン

博物館・美術館年報

平成元年度佐賀県立博物館・佐賀県立美術館年報No20を刊行し、平成元年度の管理概要、事業概要、資料概要、茶室の管理と運営の概要等を掲載し、各方面に配布。

印刷部数800部 B5版 アート紙 70頁

調査研究書

平成元年度佐賀県立博物館・佐賀県立美術館調査研究書第16集を刊行、各方面に配布した。内容は下記のとおりである。

B5版・アート紙・60ページ・1000部印刷

図録

「佐賀の名宝—いろとかたち—」展図録

佐賀県立博物館20周年記念「佐賀の名宝—いろとかたち—」展にともない刊行したもので出品作品89件の原色図版及び単色図版と解説を掲載。この他、佐賀県立博物館20年の歩みを年表形式に掲載、参考文献、出品目録など総計168頁で構成。

印刷部数1500部 B5版 アート紙使用

(2) 研究講座

1. 博物館土曜教室

演題	講師	開催日
土器の復元に挑戦しよう	木下 巧	2・5/26
鍋島綾通—いまむかし—	宮原 香苗	2・6/16
絵図にみる幕末維新の佐賀	尾形 善郎	2・7/7
昆虫標本の作り方	富崎 武夫	2・7/28
近代の風景	松本 誠一	2・8/25
肥前刀の美と系譜	竹下 正博	2・12/22
手わざの美 —佐賀の職人たち—	山崎 和文	3・1/12
発掘のはなし	蒲原 宏行	3・2/2
狩野派の絵画	福井 尚寿	3・2/23
龍造寺氏について	樋渡 敏暉	3・3/23

2. 記念講演会

平成2年度・佐賀県立博物館開館20周年記念「佐賀の名宝—いろとかたち—」展の開催を記念して下記の内容で実施した。

演題 「葉隱の思想系譜について」

講師 古賀 秀男氏(葉隱研究会会長)

日時 平成2年10月6日(土)午後2時~4時

会場 佐賀県立博物館・博物館教室

演題 「佐賀の仏教美術」

講師 錦織 亮介氏(北九州大学教授)

日時 平成2年10月13日(土)午後2時~4時

会場 佐賀県立博物館・博物館教室

演題 「経塚と写経」

講師 関 秀夫氏(東京国立博物館有史室長)

日時 平成2年10月27日(土)午後2時~4時

会場 佐賀県立博物館・博物館教室

(3) 博物館学実習(付表参照)

学芸員養成講座を持つ大学からの要請により、平成2年度は7月11日(火)から7月20日(金)までの9日間実施した。

平成2年度博物館学実習



No.89



No.90



No.91



No.92

7月	実習科目〈担当〉	
	午前	午後
11日(木)	*開講式 施設見学・管理運営 〈古賀〉	博物館・美術館の 学芸活動〈尾形〉
12日(金)	保存科学と展示 〈木下〉	中世美術〈竹下〉
13日(土)	地方史研究の方法 〈樋渡〉	民俗〈山崎〉
14日(日)	個人またはグループによる館外実習	
16日(月)	歴史演習〈樋渡〉	考古〈蒲原〉
17日(火)	企画普及と広報活動 〈木下〉	工芸〈宮原〉
18日(水)	近世美術〈福井〉	自然科学〈宮崎〉
19日(木)	近代美術〈松本〉	刀剣・甲冑の取扱い 〈浜野〉
20日(金)	資料の収集整理保管 〈宮崎〉	*閉講式

(4) 館外普及活動

平成2年5月1日 年間行事予定の配布

- 5月15日 「ふるさと文化講座」講師 小城町／専門員 木下 巧
- 7月27日 「九州社会科研究会」講師 吉野ケ里現地／専門員 木下 巧
- 9月4日 「佐賀の名宝—いろいろたち—」展 普及 (～13日)
- 9月21日 平成2年度統計グラフ佐賀県コンクール審査／学芸員 山崎 和文
- 11月21日 展示指導 唐津市／学芸員 松本 誠一
- 11月27日 佐賀県広報連絡会議／専門員 木下 巧

平成3年1月7日 「鍋島紀雄」展、「創造 in SAGA」展 普及 (～11日)

- 2月15日 東京佐賀県人会講演 東京都／学芸員 宮原 香苗
- 3月19日 「三県合同企画展—西洋絵画への挑戦」普及

(5) 映画会

平成2年度夏休み親と子の映画会

期 日 8月11日(土)～8月12日(日)

会 場 佐賀県立美術館ホール

主 催 佐賀県立美術館

(入場無料)

上映時間 10：30～15：55(午前の部・午後の部)

上映題名 お月さまと王女、オズの魔法使い、雪国の王子さま、こむぎいろの天使

6. 資料調査

平成 2 年 4 月 4 日	民俗資料調査	(多久市・碁盤師)	学芸員	山崎和文
4 月 5 日	民俗資料調査	(多久市・石彫工)	学芸員	山崎和文
4 月24日～26日	美術資料調査	(牛津町・永福寺)	副館長	尾形善郎ほか
4 月30日	美術資料調査	(三瀬町・久留米市)	学芸員	宮原香苗
5 月 2 日	美術資料調査	(牛津町・永福寺)	学芸課長	樋渡敏暉ほか
5 月 2 日	美術資料調査	(鹿島市・武雄市)	学芸員	宮原香苗
5 月 9 日	美術資料調査	(牛津町・永福寺)	学芸員	福井尚寿ほか
5 月12日～15日	企画展「佐賀の名宝」展にともなう調査 (東京都・京都府・大阪市)		学芸員	蒲原宏行
5 月14日	歴史資料調査	(佐賀市)	副館員	尾形善郎ほか
5 月16日	美術資料調査	(佐賀市・若宮神社・苗運寺)	学芸員	宮原香苗
5 月17日	歴史資料調査	(有明町)	副館長	尾形善郎ほか
5 月17日～22日	美術資料調査	(京都府・東京都・宇都宮市)	学芸員	福井尚寿
5 月31日	企画展「佐賀の名宝」展にともなう調査 (小城町・円通寺・中央公園、三学寺)		学芸員	福井尚寿
5 月31日	美術資料調査	(唐津市・恵日寺)	学芸員	竹下正博
6 月 1 日	美術資料調査	(諸富町)	学芸員	竹下正博
6 月 7 日	自然史資料調査	(長崎県時津町)	資料係長	宮崎武夫
6 月18日	美術資料調査	(武雄市・素鷺神社)	学芸員	竹下正博
6 月19日	企画展「佐賀の名宝」展にともなう調査 (武雄市教育委員会)		学芸員	山崎和文
6 月19日	企画展「佐賀の名宝」展にともなう調査 (鹿島市・祐徳博物館、誕生院)		学芸員	福井尚寿ほか
7 月10日	美術資料調査	(唐津市)	学芸員	福井尚寿
7 月11日	企画展「佐賀の名宝」展にともなう調査	(佐賀市)	学芸員	福井尚寿
7 月12日	美術資料調査	(多久市・専称寺)	学芸員	竹下正博
8 月17日	企画展「佐賀の名宝」展にともなう調査 (武雄市・広福寺)		学芸員	福井尚寿ほか
9 月11日	歴史資料調査	(蕨木町)	副館長	尾形善郎
10月16日	民俗資料調査	(多久市・基盤工)	学芸員	山崎和文
10月17日	歴史資料調査	(伊万里市)	学芸課長	樋渡敏暉
10月17日	民俗資料調査	(多久市・石工)	学芸員	山崎和文
10月18日	民俗資料調査	(多久市・人形師)	学芸員	山崎和文
10月30日	歴史資料調査	(鳥栖市・妙善寺)	学芸課長	樋渡敏暉
11月15日	美術資料調査	(唐津市)	学芸員	宮原香苗
11月15日	歴史資料調査	(福岡県・志摩町)	学芸課長	樋渡敏暉
1 月29日	美術資料調査	(鹿島市)	学芸員	竹下正博
1 月28日～29日	次年度企画展資料調査	(宮崎県清武町・綾町)	資料係長	宮崎武夫
1 月31日	歴史資料調査	(北方町)	副館長	尾形善郎
2 月 5 日	美術資料調査	(塩田町)	学芸員	宮原香苗
2 月21日～25日	歴史資料調査	(東京都・千葉県)	副館長	尾形善郎
平成 3 年 3 月 7 日	民俗資料調査	(白石町)	学芸員	山崎和文
3 月26日	美術資料調査	(諸富町・安竜寺)	学芸員	福井尚寿
3 月22日～25日	次年度企画展資料調査	(沖縄県)	資料係長	宮崎武夫

資料の概要 — 平成2年度・博物館 —

1. 購入資料

(1) 自然史資料

資料名	数量	備考
甲虫目標本(廣川標本)	9箱	オサムシ科等5科 183種 324頭
甲虫目標本(溝上標本)	5箱	ゲンゴロウ科等15科 137種 234頭
甲虫目標本(西田標本)	16箱	ゾウムシ科等48科 467種 843頭

(2) 考古資料

資料名	数量	備考
船石遺跡出土 蛇行状鉄劍	1口	複製品
船石遺跡出土 蛇行状鉄矛	1口	複製品
横田下古墳出土 筒型銅器	1個	複製品
上志波屋遺跡出土 方格四乳鏡	1面	複製品

(3) 民俗資料

資料名	数量	備考
石炭船模型	1隻	1/10縮尺

(4) 美術・工芸資料

資料名	数量	備考
朱錦紫江筆 文机図	1幅	92.9×34.4 紙本着色 掛幅装
鍋島綾通 蟹牡丹文	1対2枚	明治時代 一置物両房 木綿手織
鍋島綾通 市松に卍十文字	1枚	大正時代 一置物両房 木綿手織
鍋島綾通 龜甲に花菱文	1枚	昭和10年代 一置物両房 木綿手織
鍋島綾通 唐草花文	1対	明治時代 二置物片房 木綿手織
赤穂綾通 十字唐草に縁網目文	1枚	明治後期 一置物房なし 木綿手織
赤穂綾通 十字唐草に縁二重雷文	1枚	明治後期 一置物房なし 木綿手織
赤穂綾通 市松に雲龍縁二重雷文	1枚	明治後期 一置物房なし 木綿手織
赤穂綾通 菱唐草に縁波文	1対2枚	明治後期 一置物房なし 木綿手織
赤穂綾通 凤凰に瑞獸文	1対2枚	明治後期 一置物房なし 木綿手織
赤穂綾通 菊唐草に幾何雷文	1対2枚	明治後期 一置物房なし 木綿手織
和更紗 枯桺手	1枚	江戸後期 木綿手織
舶載硝子 フラスコ・共蓋付	1点	江戸後期
佐賀硝子 金魚鉢	1点	精煉合資会社 明治中期
絨毯 寺院に龍文	1枚	トルコ・アクサライ絨毯
絨毯 龍文	1枚	クルド族絨毯
古ぎれ行脚	1組	

2. 寄贈資料

(1) 考古資料

資料名	数量	寄贈者
桜馬場遺跡出土 連弧文鏡	1面	唐津市町田1~11~18 岩本キヨ

(2) 歴史資料

資料名	数量	寄贈者
井上 靖書 鑑真和上坐像讚の原稿	1面	佐賀市城内2丁目 鑑真和上顕彰会
東郷平八郎筆 「雄風」	1面	唐津市東城内 常安義子
紺韋威胸丸(古川松根関係資料)	1領	杉並区松の木3-25-12 古川二郎
光石家資料		
・致徳齋筆 賢人画讚	1幅	佐賀市若宮2丁目10-9 光石一男
・古賀惣庵筆 七絶二行書	1幅	〃
・武富定保筆 五字一行書	1幅	〃
・古川松根筆 二行書	1幅	〃
・燕齊考筆 五言一行書	1幅	〃
・武富咸亮作 敬齋箴	1巻	〃
・武富咸亮作 四箴	1巻	〃
・岸讓・水一合作 梅に牛寄合図	1幅	〃

資料名	数量	寄贈者
・伝古川松根筆 若水図	1幅	〃
・藤原健子筆 周図	1幅	〃
・二行書	1幅	〃
・二行書「積句云々」	1幅	〃
・二行書「久早云々」	1幅	〃
・六言二行書	1幅	〃

(3) 美術・工芸

資料名	数量	寄贈者
古川松根関係資料		
・古川松根写 賀之記ほか抄録	1冊	福岡市中央区桜坂3-5-55
・古川松根宛 曹状ほか資料	3巻	〃
・古川松根筆 柿本人麿像図	1面	杉並区松の木3-25-12
・住吉旗賛筆 人物図額	1面	古川三郎
・古川松根写 腰刀之図	1巻	〃
・久世通熙筆 和歌色紙並模紙	1幅	〃
・八田知紀筆 和歌模紙	1幅	〃
・和久半左衛門皆状	1幅	〃
・古川松根著 嶺嶼のしおり(版本)	1冊	〃
・古川松根著 嶺嶼のしおり(滑書本)	1冊	〃
・古川松根筆 歌合稿	6枚	〃
・岡 吉胤著 水府小言	1冊	〃
・鍋島直子和歌集 梅信集 上下	2冊	〃
・大達法師玄秘塔碑銘並序拓本	1幅	〃
・古川松根印草	33顆	〃
・古川松根使用 文机	1基	〃
・和歌短冊並模紙	206点	〃
・筒描き松竹梅文鏡	1枚	〃
・納戸色梅紋着物	1振	〃
・黒絶桐紋着物	1振	〃
・唐棧縞着物	1振	〃
・紺地小紋着物角通し文	1振	〃
・納戸地小紋着物小桜文	1振	〃
・銅銅樹果彫文花器	1対	〃
・鍛造花紋茶罐	1合	〃
・菊花紐茶罐	1合	〃
・鍛造広口双耳花器	1口	〃
・染付青海波萩水仙図皿	1対	〃
・染付蘭文皿	1組	〃
・染付花蘭文小坏	1組	〃
・鍋島青磁雲文輪花形皿	1組	〃
・白磁輪花形皿	1組	〃
・染付秋草文向付	1組	〃
・染付蘭文碗	1組	〃
・染付色絵菊花文碗	1組	〃
・染付吉祥図文鉢	1組	〃
・染付金彩留華水裂文碗	1口	〃
・染付色絵千両文小向付	1組	〃
・染付色絵瓜文鉢	1組	〃
・染付金彩楓東文碗・蓋	1組	〃
・黒漆蒔絵若松文碗・蓋	1組	〃
・綠漆蒔絵歯朶草文朱盃	1組	〃
・朱漆蒔絵向付	1組	〃
・黒漆蒔絵萩薄文碗・蓋	1組	〃
・朱漆蒔絵網目文碗・蓋	1組	〃
・絹織袋紙入れ蝶唐草文	1点	〃
・染革筆入・硯	1組	〃
・煙草盆一式	1式	〃
鍋島綬通 蟹牡丹文	1枚	佐賀市唐人1丁目2-18
木綿織敷物(鍋島綬通) 危甲文	1枚	北九州市八幡東区荒生田
鍋島綬通碑拓本	掛幅1対	佐賀市嘉瀬町 苗運寺
茶色地小紋紋付	1振	佐賀市北川副町木原
木綿縞羽織	1振	太田マツエ
濃色縞羽織	1振	〃
裂織帯	1振	〃
黒羅紗袴(インバース)	1振	〃
和更紗 唐花詰文	1片	鹿島市大字高津原3588
黒地刺繍小袖 老梅鷹文	1振	唐津市町田3-4-26
唐棧縞着物	1振	神奈川県三浦郡葉山町
		石尾恵美子

3. 寄託資料

(1) 考古資料

資料名	数量	寄託者
詫田西分貝塚・姉遺跡出土木製品	31点	神埼郡・千代田町教育委員会
詫田西分貝塚出土・銅鏡	1個	佐賀市・個人

(2) 民俗資料

資料名	数量	備考
御判物札(板)	1枚	佐賀郡・個人
阿波・長門書状	1通	佐賀郡・個人

(3) 美術・工芸資料

資料名	数量	備考
廣渡心海他筆 書画貼交草花園屏風	1隻	久留米市・個人
花鳥國屏風	1隻	久留米市・個人
住吉廣守筆 遊葉山図	1幅	佐賀市・個人
鍋島綏通 蟹牡丹唐草文	1枚	佐賀市・若宮神社
狩野則信筆 靈鷲図	1幅	唐津市・個人
花鳥図袋戸	4面	リ リ
藤田東湖書 六行書	1幅	リ リ
佐賀硝子 草文花瓶(精煉社)	1点	リ リ
染錦樓閣山水図唐花文皿	1枚	リ リ
染付百鬼文四段重(伊万里)	1組	リ リ
蒔絵四段重 御所車花籠図・替蓋付	1組	リ リ
竜胆車紋散蒔絵硯箱	1組	リ リ
竜胆車紋散蒔絵料紙箱・文箱	1組	リ リ
陶影 五大州人形像(唐津焼)	1点	リ リ
蒔絵提重 萩朝彦に花籠図	1組	リ リ

4. 資料の貸出状況

資料名	貸出先・目的	貸出・返却
大友遺跡出土イモガイ製貝輪(1)	福岡市博物館(複製品作製のため)	2.4.3~6.28
色絵花蝶団輪花鉢ほか(4)	大分市歴史資料館「大分のやきもの展」	2.4.17~5.29
寺浦廃寺跡出土瓦(2)	佐賀新聞社「新肥前風土記写真展」	2.6.5~6.12
菜畑遺跡出土石包丁複製(1) 石鎌複製(1)		
佐嘉小城内絵図(1)	佐賀県測量・設計業協会「地図展」	2.6.21~6.23
桜馬場遺跡出土 方格規矩四神鏡(1) 有鉤銅釧(3) 巴形銅器(3)	鳥取県立博物館 「卑弥呼の時代をさぐる ~発掘が語る弥生文化~」	2.7.16~8.30
検見谷遺跡出土銅矛(3)		
佐賀七賢人パネル(1)	佐賀県観光物産課「佐賀フェアー」	2.8.2~8.20
二塚山遺跡出土連弧文繫渭白鏡(1)	大阪府教育委員会(複製品作製のため)	2.8.7~9.19
千葉県成田市出土半鐘複製(1)	鹿児島県歴史資料センター黎明館 「仏教文化の伝来と定着展」	2.9.6~10.16
肥前国分寺跡出土軒先瓦(2)		
横田遺跡出土 素環頭鉄刀(1) 鉄劍(1)	岩手県立博物館「北の鉄文化展」	2.9.17~12.7
二塚山遺跡出土 渦文鏡(1) 連弧文鏡(1) 偽銘帶鏡(1)	石川県立歴史博物館 「魅惑の日本海文化展」	2.9.25~11.15
杣島山遺跡出土 連弧文昭明鏡(1) 管玉(36) 方格規矩四神鏡(1) 勾玉(3) 素環頭刀子(1)		
大友遺跡出土貝輪(5)		
川寄吉原遺跡出土鐸形土製品(1) 吉野ヶ里遺跡1002号甕棺複製(1)		
観光丸模型(1) 海軍伝習所之図(1) 三重津海軍所之図(1) 長崎砲台図(1) アームストロング砲複製(1)	霞会館 「戊辰の波濤展」	2.10.1~12.6
南蛮兜	埼玉県立博物館「南蛮の美術展」	2.10.13~12.15

資料名	貸出先・目的	貸出・返却
角盥(1) 棟(1)	城南町歴史民俗資料館 「酒と器の歴史展」	2.10.1~12.6
名護屋城図屏風(1)	福岡市博物館 「対外交流史 I -大航海時代と博多-展」	2.11.5~11.27
木造円鑑禪師坐像(1)	熊本県立美術館「鎌倉時代の彫刻展」	2.11.5~12.20
佐賀七賢人パネル(1) 三重津海軍所之図(1)	佐賀県観光物産課 「物産と観光展」	2.11.20~11.30
桜馬場遺跡出土 方格規矩渦文鏡(1)巴形銅器(3) 有鉤銅釧(1) 二塚山遺跡出土ガラス製玉類（一括） 大友遺跡出土貝輪(8) 貝製垂飾品(1) 久蘇遺跡出土壺形土器(1)	大阪府立弥生文化博物館 「弥生の美展」	3.1.22~4.7
宇木鶴崎遺跡出土有柄銅劍(1) 徳須恵遺跡出土細形銅矛(1)	唐津市教育委員会 「末盧国-魏使初上陸の地展」	3.1.24~3.28
逸然筆 普賢騎象像(1) 狩野益信筆 即非像(1)	神戸市立博物館 「隱元禪師と黄檗宗の絵画展」	3.2.8~3.29

5. 購入・寄贈図書

(1) 購入図書

書名	発行所
佐賀城下町竈帳	九州大学出版
大漢和辞典語彙索引	東海大学出版
巖窟藏鏡	株同朋舎出版
国史大辞典	吉川弘文館
経緯の諸相とその展開	雄山閣
日本産トンボ幼虫成虫検索図説	東海大学出版
「靖国神社忠魂史」西南の役	株青潮社
和英対照日本美術用語辞典	東京美術
佐賀県文化財写真集 ふるさとの美と心	佐賀新聞社
東京風俗誌	富山房
光画	復刻版「光画」刊行会
復刻 大日本美術新報全5巻	ゆまに書房
近代美術叢書 2臥遊席珍	//
東洋絵画叢誌 全3、4巻	//
観古図説	中央公論美術出版
鐘紡コレクション第3、4巻	毎日新聞社
現代の洋画 全29冊	臨川書店
明治前期油画基礎資料集成	中央公論美術出版
明治開化期の錦絵	東京大学出版会
明治前期学術雑誌論文記事総覧	ゆまに書房
御物1-4	毎日新聞社
図像学辞典	岩崎美術社

(2) 寄贈図書

書名	寄贈者
神奈川県文化財図鑑(歴史資料編)	神奈川県教育庁
野村コレクション小袖屏風	国立歴史民族博物館
佐賀県文化財写真集 ふるさとの美と心	佐賀新聞社
日本仏像大百科 菩薩-2-	ぎょうせい
特別展図録 日本の考古学-その歩みと成果	東京国立博物館
百萬人のコレクションNo.19	株東洋総企
古伊万里再発見T54.47.13	野田 敏雄
日本美術院百年史 第2巻 上・下	日本美術院

茶室「清恵庵」の管理と運営の概況

1 茶室の規模および施設

茶室「清恵庵」は昭和48年10月郷土出身の実業家故市村清氏のご遺志により、同夫人幸恵氏より本県に寄贈されたもので、今年で17年目を迎える。利用の傾向としては普及が広く一般に浸透し、県内、県外の茶道各流派のグループによる利用や、各種団体による茶会など幅広く利用された。

設計者 堀口捨己 東京都大田区山王4-6-5
早川正夫 東京都港区青山5-9-12
構 造 木造平家建 寄棟造り
規 模 床面積 57.35m²

2 茶室の利用状況

茶室「清恵庵」の利用については、17年目に入り県内はもとより県外にも広く周知され、好評を得ている。

今年度は、各流の茶道グループ、婦人学級、青年団、学校などの団体あるいは、茶道愛好会など利用者の幅もさらに広まり、社会教育、学校教育の一環として広く利用された。

月別にみた利用状況は次のとおりである。

平成2年度			
月	利用団体数	利用者数	見学者数
4	2	21	7
5	1	21	7
6			2
7			
8			12
9			2
10			
11	5	55	4
12			3
1	6	117	2
2	1	13	7
3	1	28	3
計	16	255	49

3 茶道具備品

平成2年度末の概況は次のとおり191点である。

掛物 淡々斎宗室、希斎宗有、大徳寺桃林の書、村瀬玄妙の書、堺茶翁の二行書、千宗佐、千代尼

花入 胡銅、朝鮮唐津「中里重利作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、大川内焼青磁「小笠原鑑作」、備前焼、竹花入「生野祥雲斎作」、竹一重切花入「宗陵作」、有馬千鳥籠花入、有馬ひさご籠花入「昭竹斎作」、青磁鶴首花入「小笠原鑑作」

香合・香炉 「12代今泉今右衛門作」、「井上萬二作」、黒牟田焼「丸田正美作」、「宗祥作」、菊花書詰蒔絵卵香合「助市作」、「13代今泉今右衛門作」、「源右衛門作」

茶碗 唐津奥高麗「中里無庵作」、絵唐津・唐津刷毛目「13代中里太郎右衛門作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、大川内焼青磁「小笠原鑑作」、青磁「中島宏作」、唐津井戸・唐津皮鯨茶碗「中里重利作」、白磁茶碗「初代忠右衛門作」、黒樂茶碗「小川長樂作」、志野茶碗「荒川豊蔵作」、支那焼、高麗斗々屋「千漢鳳作」

水指 信楽焼「高橋樂斎作」、朝鮮唐津「中里重利作」、小山路焼「江口勝美作」、染付「12代今泉今右衛門作」、高麗「千漢鳳作」

薄茶器 沈金棗「安村稔作」

濃茶器 「13代酒井田柿右衛門作」

茶杓 「宗泰作」

風炉 利休面取風炉、切合唐銅風炉、合金面取風炉、鬼面共耳風炉

釜 切合釜・竹紋縁口釜「松寿作」、筋入炉釜、菊桐地紋炉釜、雲竜釜「高橋敬典作」、尻張釜「高橋敬典作」、鬼面共耳風炉釜「横倉嘉山作」

棚 竹台子、桐丸卓、桑小卓、真塗長坂

火入 染付「12代今泉今右衛門作」

菓子器 唐津焼「13代太郎衛門作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、青磁「中島宏作」、現川焼

建水 不審庵伝来写「11代中川淨益作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、唐銅

風炉先屏風 秋草蒔絵

炉縁 高台寺蒔絵「柴田利雄作」

曲湯桶、置炉、瓶掛、蒟蒻塗四方盆、茶托と蓋、茶碾、茶壺

平成2年度

佐賀県立美術館

美術館の沿革

- 昭和55年 3月 県政百周年記念事業の一環として、昭和58年開館を目指し、佐賀県立美術館の建設を決定。
- 昭和55年 4月25日 佐賀県立美術館建設委員会設置。
- 12月10日 安井建築設計事務所による基本設計採用。
- 昭和56年 3月31日 安井建築設計事務所による実施設計採用。
- 10月26日 佐賀県立美術館建設着工。
- 昭和58年 1月31日 佐賀県立美術館建設完工。
- 4月 1日 佐賀県立美術館設置条例施行。
佐賀県博物館及び美術館協議会条例施行。
佐賀県立美術館処務規則施行。
- 10月 7日 山口亮一氏遺作64点を山口三千也氏より寄贈受く。
- 10月 8日 佐賀県立美術館落成式、開館記念展「近代・九州の洋画家たち展」開催。
- 昭和61年 9月 1日 石本秀雄氏遺作31点を遺族より寄贈受く。
- 昭和63年 9月30日 佐賀県立美術館開館5周年記念展「田園風俗画展」開催。
- 以上のほか、多くの方々から貴重な資料を寄贈して頂きました。
ここには点数の特に多いもののみを記載しました。

美術館日誌 平成2年度

平成2年

- 4月 1日 職員人事異動
- 4月 3日 第3回九州国画会佐賀支部写真展
(～8日)
- 4月13日 抒情の美 近代日本の美人画展
(～5月13日)
- 5月18日 第74回二科展
(～6月3日)
- 6月 7日 第73回佐賀美術協会展
(～17日)
- 6月23日 ブリヂストン美術館名作展
(～7月22日)
- 7月16日 美術館デッサン教室
(～20日)
- 7月24日 第31回東光会佐賀支部緑光会展
(～29日)
- 7月25日 常設展 日本画形式の洋画家たち
古賀紀男の絵画 (～9月24日)
- 8月 1日 第21回独立C S展
(～5日)
- 8月 7日 第18回七夕書道展
(～11日)
- 8月21日 第11回九州新工芸展
(～26日)
- 8月29日 第10回創元会佐賀県支部展
(～9月2日)
- 9月 1日 土曜教室「近代の風景」講師・松本誠一
- 9月 4日 第7回佐賀県写真協会展
(～9日)
- 9月12日 第22回佐賀県労働者美術展
(～16日)
- 9月19日 第15回佐賀県書作家協会展
(～24日)
- 9月28日 常設展 美術館への道程展
(～10月21日)
- 10月23日 高等学校美術選抜展
(～28日)
- 10月31日 第14回高等学校芸術祭書道展
(11月8日)
- 10月31日 第13回さが行動展
(～11月4日)
- 11月17日 第40回佐賀県美術展 (～25日)
- 11月27日 第31回佐賀県学童美術展 (～12月2日)
- 11月30日 常設展 小さな企画展 (～12月16日)

- 12月 4日 第32回佐賀大学教育学部美術工芸科総合展
(～9日)
- 12月11日 第11回佐賀新聞学生書道展 (～16日)
- 12月18日 第14回高等学校芸術祭美術展 (～24日)
- 12月28日 執務納め式

平成3年

- 1月 4日 執務始め式
- 1月 5日 第3回佐賀県現代作家美術展 (～20日)
- 1月26日 わが魂を描く 鍋島紀男の世界展
(～2月17日)
- 1月26日 創造 in SAGA (～2月17日)
- 2月 9日 創造 in SAGA記念講演
「生活のよろこびとデザイン」
講師・佐賀大学助教授 萩原孝三
- 2月19日 第39回佐賀大学教育学部美術工芸科卒業制作展
(～24日)
- 2月20日 常設展 ベルナール・ビュッフェ銅版画
(～3月17日)
- 2月26日 第15回九州藍笏会展
(～3月3日)
- 3月 5日 第13回二紀佐賀グループ展 (～10日)
- 3月13日 第5回総合美術ハチロク展 (～17日)
- 3月20日 三県合同企画展「洋画への挑戦」
(～31日)
- 3月30日 三県合同企画展記念講演
「まだ見ぬ国の絵画—洋風画—」
講師・長崎県立美術博物館主任学芸員 徳山光

規模および施設

構 造	鉄筋コンクリート造	一階建	一部二階建	
規 模	敷地面積	7,986m ²		
	建築面積	3,644m ²		
	延床面積	4,238m ²		
施 設	1号展示室	204m ²	倉 庫	5m ²
	2号展示室	230m ²	ホ ル	529m ²
	3号展示室	250m ²	和楽室・洋楽室	39m ²
	4号展示室	366m ²	準備室	18m ²
	収蔵庫	319m ²	映写室	12m ²
	収蔵庫前室	26m ²	機械室	47m ²
	荷解場	120m ²	倉 庫	13m ²
	倉 庫	79m ²	便 所	34m ²
	画廊・準備室	137m ²	ホワイエ	126m ²
	研修室	135m ²	休憩室	56m ²
	事務室	148m ²	便 所	93m ²
	写真室・暗室	58m ²	廊下・階段等	
	機械室	80m ²		1,114m ²

※組織は全て博物館と同様であり、博物館職員全員がそれぞれ対応する職を兼務している。

平成2年度 美術館歳出予算

科 目	予算額(単位千円)	科 目	予算額(単位千円)
(美術館費)		3. 調査研究費	150
1. 管理運営費	50,982	研究費	82
管理費	50,858	調査費	68
会議及び研修費	124	4. 企画展費	11,561
2. 資料整備費	25,883	5. 常設展費	1,518
資料購入費	20,225	6. 普及活動費	185
資料整備費	5,478	7. 施設整備費	6,761
資料収集費	180	計	97,040

事業の実施状況

1. 平成2年度 美術館常設展

- ・7月25日～9月24日(1・2・3号展示室)
日本画形式の洋画家たち
古賀紀男の絵画
- ・9月28日～10月21日(1・2・3・4号展示室)
美術館への道程展
- ・11月30日～12月16日(1・2・3号展示室)
小さな企画展
- ・2月20日～3月17日(1・2・3号展示室)
ベルナール・ビュッフェ銅版画

I 彫 刻

古賀忠雄の作品を、人体像を中心として展示了。

II 版 画

ベルナール・ビュッフェの銅版画を展示了。

III 工 芸

第2期：7月25日～9月24日(1号B展示室)

「彫刻家 古賀忠雄—土と紙—」
佐賀市に生まれた古賀忠雄(1903～79)は、有田工業学校から東京美術学校彫刻科へ進み、在学中の昭和4年第10回帝展に初入選、同14年第3回文展出品の「岬の男」で特選に選ばれる。日展をへて、同42年日本芸術院会員に推挙された作家である。今回は、寄贈作品を中心にブロンズ以外の習作14点を紹介した。

魚絵皿	かれい	1958
大皿	青い太陽	1970
大皿	三人の女	1970
大皿	三尊仏	c.1970(購入)
大皿	少女の世界	1972
テラコッタ	鶴	1959
水注	ほろほろ鳥	1960
魚形壺		1960
紙塑	シャモ	1947
紙塑	人 魚	1948
紙塑	染 園	1951
紙塑	親 子	1951

紙塑 吾が子 1976
紙塑 語らい 1976

第3期：9月28日～10月21日(1号A展示室)

「美術館への道程—いかにしてコレクションは形づくられたか—」
工芸は金工、陶芸、染織から14作家26点の収蔵作品を一部展示替えして紹介した。

石田英一	鎌起 菅公像	1935 改組第1回帝展
石田英一	鎌起 葡萄栗鼠像	c.1937
豊田勝秋	鎌銅 四方花さし	1932 第6回无型展
松尾忠次	鉄地銀象嵌壺	1984 第16回日展
12代今泉今右衛門	色鍋島更紗文八角大皿	c.1963
初代奥川忠右衛門	白磁牡丹彫文花瓶	c.1965
12代酒井田柿右衛門	濁手色絵草花文蓋物	c.1958
12代中里太郎右衛門	叩き朝鮮唐津壺	c.1962
初代松本佩山	五彩布目雲獸文大皿	1941
丸田正美	塩釉黒釉流し文盛器	c.1963
副島太郎	ガラス 紅彩	1984 第16回日展
相島正彦	佐賀錦三ツ折バッグ	1972
相島正彦	佐賀錦三ツ折バッグ 霧	1973
相島正彦	佐賀錦三ツ折バッグ 晓	1975
相島正彦	佐賀錦三ツ折バッグ 菱	1976
相島正彦	佐賀錦三ツ折バッグ 精魂	1976
相島正彦	佐賀錦三ツ折バッグ 鶴瑞	1977
小川泰彦	染色屏風 有明	1979
小川泰彦	染色 有明回帰	1985
城 秀男	染色屏風 現代想	1969
城 秀男	染色 回昔壯姿	1986 第18回日展
鈴田照次	型絵染壁画 松観	1965
鈴田照次	木版摺更紗着物 松文	1973
鈴田照次	木版摺更紗着物 松竹梅文	1975
		第20回日本伝統工芸展
		第22回日本伝統工芸展

鈴田照次 木版摺更紗着物 松の花文 1978
第25回日本伝統工芸展

鈴田照次 木版摺更紗着物 山果鳥文 1980
第27回日本伝統工芸展

第4期：11月30日～12月16日（3号展示室）
小さな企画展「一松尾忠次 かたち創る金属ー」

金工家松尾忠次（1909～）は、東京美術学校工芸科で清水龜蔵に彫金を学び、卒業後満州造幣局に勤務する。終戦後帰郷し、昭和26年第7回日展に初出品の「鉄布目花瓶」で入選、以後一年一作の充実した活動を続けるが、日展出品作以外には創作せず、知られざる市井の一工芸家である。鉄の硬質重厚な立体を素材に銀象嵌で装飾、構成した作品を中心に初期から現在にいたる24点を紹介した。

彫金 雪中の鶯 1932～36 勝河村美術館
硯箱 孤猿 1932～36 勝河村美術館
朱漆文箱 瑞鳥唐草文 1936 勝河村美術館
彫金 初夏の宵 1952 第8回日展 勝河村美術館
彫金圓宮 錦秋 1953 第9回日展 勝河村美術館
金銀鉄花器 1957 第13回日展 勝河村美術館
金銀鉄花器 1958 第1回日展（個人蔵）
花器 双体 1959 第2回日展（個人蔵）
金華花器 1960 第3回日展（個人蔵）
作 品 1964 第7回日展（個人蔵）
作 品 1966 第9回日展（個人蔵）
対 1968 第11回日展（個人蔵）
きれつ 1970 第2回日展（個人蔵）
崩（モエル） 1970 第20回県展（個人蔵）
布目象嵌器 1976 第8回日展（個人蔵）
鉄地銀彩壺 1977 第9回日展（個人蔵）
鉄地銀彩器 1981 第13回日展（個人蔵）
鉄地銀彩壺 1982 第14回日展（個人蔵）
鉄銀彩壺 1983 第15回日展（個人蔵）
鉄地銀象嵌壺 1984 第16回日展（館蔵）
双 魚 1985 第17回日展（個人蔵）
双（ソウシ）翅 1986 第18回日展（個人蔵）
銀 鱗 1987 第19回日展（個人蔵）
樹 想 1988 第20回日展（個人蔵）

第5期：2月20日～3月17日（2・3号展示室）
「ベルナール・ピュッフェー挿画シリーズよりー」

パリ生まれのベルナール・ピュッフェー（1928～）
は、15歳でエコール・デ・ボザール（官立美術学校）

に入學し、1948年、20歳で批評家賞を受賞、1955年には“世界の画家十傑”の第1位に選ばれ、1958年には回顧展が開催される評判の画家である。博物学、植物学への興味はドライポイントの作品群、挿画のシリーズにいきいきと表現されている。

以下、挿画集6シリーズから66点と表本前の『マルドロールの歌』上下2巻にくわえて「自画像」など5点、計71点と2巻を展示了。

『マルドロールの歌』挿画	1952	18点／125
『マルドロールの歌』（表本前）	1952	上下2巻
『キリストの受難』挿画	1954	11点／21
『人間の声』挿画	1957	13点／22
『日月両世界空想旅行』挿画	1958	11点／20
『ナボリ』挿画	1959	7点／14
『サン・カスト』挿画	1962	8点／16
自画像	1949	2点
学校	1953	1点
ブルトン港	1954	1点
昆虫	1964	1点
昆虫	1964	1点

IV 近代・現代美術

第2期 7月25日～9月24日
「古賀忠雄の絵画」（3号展示室）彫刻家古賀の画稿類35点を紹介した。

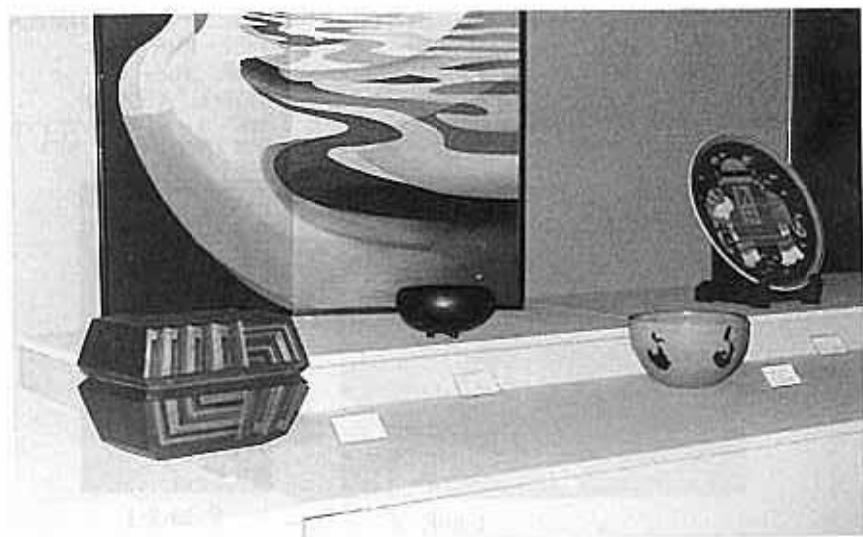
「日本画形式の洋画家たち」（2号展示室）洋画家である山口亮一、北島浅一、御厨純一の屏風あるいは掛軸の装幀にえがかれた作品23点を展示了。

第3期 9月28日～10月21日
「美術館への道程展」（1・2・3・4号展示室）美術館の全室を使用し、収蔵品の代表作品153点を展示了。

小さな企画展（11月30日～12月16日）では、これまであまり紹介する機会がなかった画家（有馬さとえ、別府貢一郎、島内きみ他5人）の作品20点を展示了。



展示風景

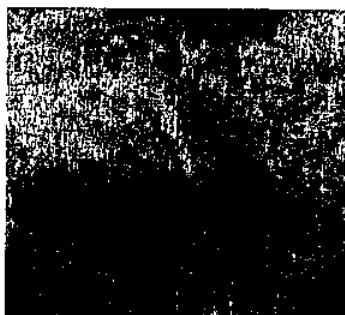


展示風景



1. F-20-2-1

高取稚成 TAKATORI, Wakanari
1867~1935
月下問答図 Dialogue under the moon
岩絵具・絹 133.3×41.6
左下「稚成」印
平成 2 年度 購入 9092



2. F-20-2-1

鍋島紀雄 NABESHIMA, Tadao
1897~1968
海島天然 Island on the rainy sea
1966(昭和41)
岩絵具・墨・紙 169.5×186.6
平成 2 年度 購入 9171



1. F-20-3-1

久米桂一郎 KUME, Keiichirō
1866~1934
子供のいる風景 Garden with a child
1895(明治28)
油彩・キャンバス 45.3×60.5
左下「K. Kume Kioto 1895」
平成 2 年度 購入 9083



2. F-20-3-1

北島浅一 KITAJIMA, Asaichi
1887~1948
裸婦 Nude
1919-21(大正8-10)
油彩・キャンバス 79.8×63.7
平成 2 年度 購入 9073



3. F-20-3-1

北島浅一 KITAJIMA, Asaichi
1887~1948
立てる裸婦 Nude, standing
1926(大正15)頃
油彩・キャンバス 129.0×80.0
左下「A-Kitajima」
平成 2 年度 購入 9084

油 彩



4. F-20-3-1

北島浅一 KITAJIMA,Asaichi
1887~1948
横たわる裸婦 Nude,reclining
1927(昭和2)
油彩・キャンバス 80.0×99.5
左下「A-Kitajima -1927-」
平成2年度 購入 9085



7. F-20-3-1

山口孝行 YAMAGUCHI,Takayuki
1903~1982
画室 Atelier
1963(昭和38)
油彩・キャンバス 162.0×130.3
右下「1963 T.yamaguchi」
平成2年度 寄贈 9093



5. F-20-3-1

甲斐仁代 KAI,Hitoyo
1902~1963
静物 Still life
油彩・紙(板貼) 11.0×19.0
平成2年度 寄贈 9207



8. F-20-3-1

山口孝行 YAMAGUCHI,Takayuki
1903~1982
一隅を照す Throwing light on the corner
1974(昭和49)
油彩・キャンバス 45.3×37.7
右下「昭和四十九年八月 孝行寫」
平成2年度 寄贈 9095



6. F-20-3-1

山口孝行 YAMAGUCHI,Takayuki
1903~1982
ばら Roses
1962(昭和37)
油彩・キャンバス 41.0×31.9
左下「T.yamaguchi -1975-」
平成2年度 寄贈 9094



9. F-20-3-1

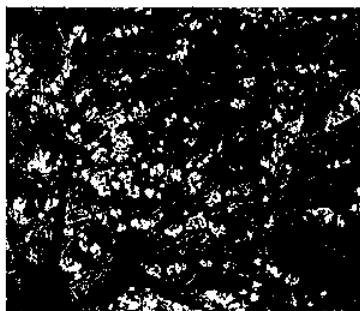
山口孝行 YAMAGUCHI,Takayuki
1903~1982
モスクワの朝 On the morning in Moscow
1975(昭和50)
油彩・キャンバス 90.8×116.5
右下「T.yamaguchi -1975-」
平成2年度 寄贈 9096

油 彩



10. F-20-3-1

山口孝行 YAMAGUCHI,Takayuki
1903～1982
早春の林 Woods in the early spring
1978(昭和53)
油彩・キャンバス 116.6×90.8
右下「1978 T.yamaguchi」
平成2年度 寄贈 9097



11. F-20-3-1

山口孝行 YAMAGUCHI,Takayuki
1903～1982
老梅 Old 'Ume' tree
1979(昭和54)
油彩・キャンバス 45.2×52.9
右下「T.yamaguchi」
平成2年度 寄贈 9098



12. F-20-3-1

山口孝行 YAMAGUCHI,Takayuki
1903～1982
楠若葉 Young leaves on camphor trees
1980(昭和55)
油彩・キャンバス 111.9×145.3
右下「-80- T.yamaguchi」
平成2年度 寄贈 9099



13. F-20-3-1

深川善次 FUKAGAWA,Zenji
1924～
秋日 In an autumn day
1962(昭和37)
油彩・キャンバス 112.3×145.3
右下「Zenji H.」
平成2年度 寄贈 9074



14. F-20-3-1

深川善次 FUKAGAWA,Zenji
1924～
農家の午後 In the afternoon at a farm house
1973(昭和48)
油彩・キャンバス 162.4×130.4
左下「善次」
平成2年度 寄贈 9075



15. F-20-3-1

深川善次 FUKAGAWA,Zenji
1924～
皿山の民家 Old private house at Sarayama
1977(昭和52)
油彩・キャンバス 162.0×130.6
左下「善次」
平成2年度 寄贈 9076

油 彩



16. F-20-3-1

深川善次 FUKAGAWA,Zenji
1924～
持国天像 Jikoku-ten
1973-83(昭和48-58)
油彩・キャンバス 145.0×112.2
左下「善」
平成 2 年度 寄贈 9077



19. F-20-3-1

吉武研司 YOSHITAKE,Kenji
1948～
肖像-顔の風景 Portrait-Scenic face
1989(平成 1)
油彩・キャンバス 162.0×162.0
平成 2 年度 寄贈 9080



17. F-20-3-1

深川善次 FUKAGAWA,Zenji
1924～
はがくれの里(実相院) Jitsusōin 'Hagakure'
1987(昭和62)
油彩・キャンバス 161.8×130.4
右下「善次」
平成 2 年度 寄贈 9078



18. F-20-3-1

山口草四郎 YAMAGUCHI,Sōshirō
1924～
オンフルール Honfleur
1889(平成 1)
油彩・キャンバス 161.8×130.4
右下「SōshiRō.y」
平成 2 年度 寄贈 9208

水彩・素描



1. F-20-3-2

山口亮一 YAMAGUCHI,Ryōichi

1880～1947

三舟山観梅の宴 Feast of seeing 'Ume' trees at Mifune-yama

1953(昭和28)

油彩・キャンバス
24.4×33.6
平成2年度 寄贈
9081



2. F-20-2-0

鍋島紀雄 NABESHIMA,Tadao

1897～1968

隨雨歎晴図 下絵 Waiting for a lull in the rain
1966(昭和41)

コンテ・紙 60.5×136.2
右下「昭和41年5月16日」「画人鍋島」印
平成2年度 購入 9172



3. F-20-3-2

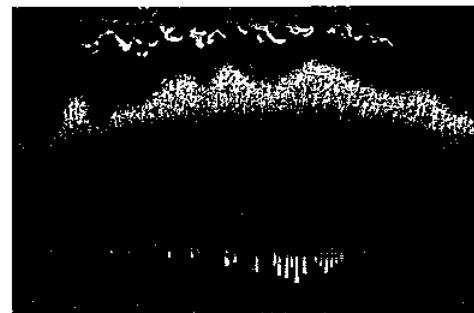
甲斐仁代 KAI,Hitoyo

1902～1963

旅の日記 Diary of a tour
1943(昭和18)

水彩・紙 21×132(×3)
巻末「癸未正月」「仁代」印
平成2年度 寄贈 9199

版画



1. F-20-4-2

牧野宗則 MAKINO,Munenori

1940～

赤い風 Red wind

1990(平成2)

多色木版 49.3×74.1
右下「まきのむねのり 宗則」
平成2年度 購入 9203



2. F-20-4-2

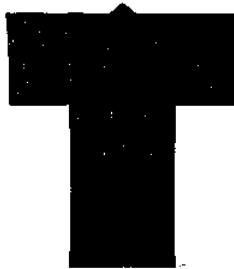
牧野宗則 MAKINO,Munenori

1940～

祈り Prayer

1991(平成3)

多色木版 49.2×35.3
右下「まきのむねのり 宗則」
平成2年度 購入 9204



1. F-50(岡田三郎助関係資料)
唐桟縞着物 Kimono with stipes
昭和初め
袴丈 65.0 着丈 141.0 袖丈 52.8
平成2年度 寄贈 9198



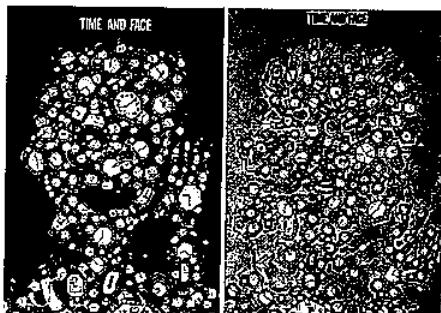
1. F-10-1
江頭満帆 EGASHIRA,Maho
1947～
録唐詩三首
1990(平成2)
紙本墨書き 226.9×51.8
左下に印
平成2年度 管理換 9188



2. F-20-2-1
和久井シヅエ WAKUI,Shizue
1922～
湫(しゅう) Bottom of woods
1990(平成2)
岩絵具・紙 117.0×91.1
平成2年度 管理換 9184



3. F-20-3-1
石川博愛 ISHIKAWA,Hiroyoshi
1936～
窯跡のある風景 Scenery with ruins of
a kiln
1990(平成2)
油彩・キャンバス 162.1×162.1
平成2年度 管理換 9185



4. F-20-0

古賀貴康 KOGA,Takayasu
1961～

イラストレーション TIME AND FACE (A)(B)
1990(平成2)

グラフィックデザイン 102.8×72.7
平成2年度 管理換 9187

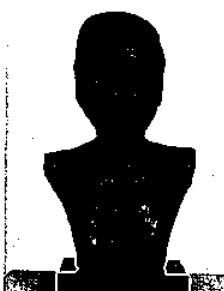


5. F-20-0

松尾房利 MATSUO,Fusatoshi
1948～

一隅(いちぐう) A corner
1990(平成2)

写真 72.7×51.4
平成2年度 管理換 9186

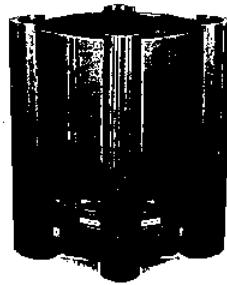


6. F-30-3

田中 孝 TANAKA,Takashi
1929～

母の顔 Bust of a mother
1990(平成2)

ブロンズ H52.5
平成2年度 管理換 9183



1. F-40-1

豊田勝秋 TOYODA,Katsuaki

1897～1972

銅「廣間への花挿」

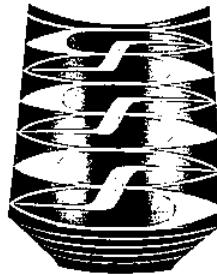
Vase for Saloon

1932(昭和7)

ブロンズ 32.4×23.1×H36.0

底影銘「勝秋作」

平成2年度 購入 9088



2. F-40-1

松尾忠次 MATSUO,Tadatsugu
1909～

金銀鉄花器

Iron Vase : Inlaid Gold-Silver Design
1958(昭和33)

鉄・金銀加飾 34.7×22.2×H41.8

底影銘「忠次作」

平成2年度 購入 9167



3. F-40-1

松尾忠次 MATSUO,Tadatsugu
1909～

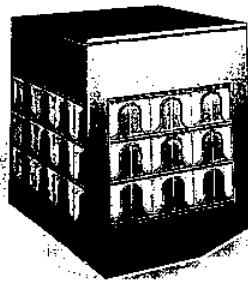
金華花器 Golden Vase

1960(昭和35)

銅・鍛造 口径 30.8×H39.8

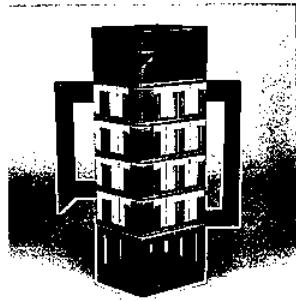
底影銘「忠次作」

平成2年度 購入 9168



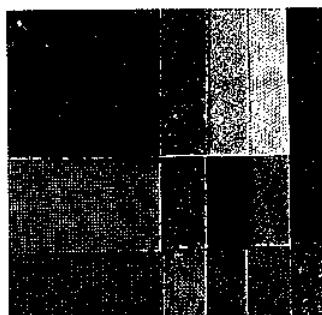
4. F-40-1

松尾忠次 MATSUO,Tadatsugu
1909~
布目象嵌器
ron Box-Vase : Inlaid Silver Design
1976(昭和51)
表・銀加飾 30.5×30.4×H42.0
底底銘「忠次作」
平成2年度 購入 9169



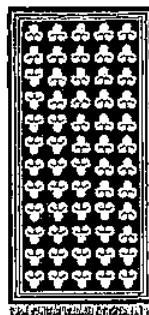
5. F-40-1

松尾忠次 MATSUO,Tadatsugu
1909~
銀鱗
Vase : Silver Scales
1987(昭和62)
表・銀加飾 径 39.8×H55.9
底面底銘「忠次」
平成2年度 購入 9170



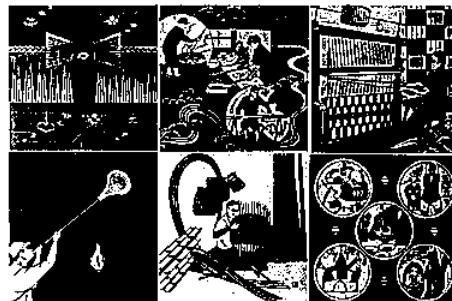
6. F-40-5

小宮康孝 KOMIYA,Yasutaka
1925~
江戸小紋小紋紗
Fukusas : Edo-Komon Patterns
1990(平成2)
絹緞地1組(15) 15.8×15.5
底底銘「小宮」
平成2年度 寄贈 9091



7. F-40-5

鈴田照次 SUZUTA,Teruji
1916~1981
鍋島織通 唐環文
Nabeshima-Rug : Crest Pattern
1972(昭和47)デザイン
木綿地 193.5×95.4
1990吉島敷物製作
平成2年度 発生(製作委託) 9152



8. F-40-5

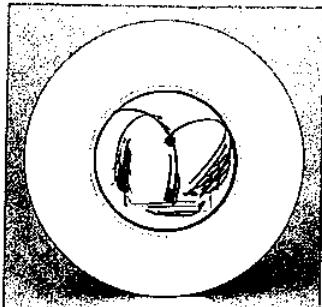
鈴田照次 SUZUTA,Teruji
1916~1981
和紙型絵染 肥前の手工芸
Craftwork of Hizen:Stencil Dyeing
1977(昭和52)
和紙 1組(7) 35.0×35.5
鈴田遊人制作1991
平成2年度 購入 9209



9. F-40-5 (3)

鈴田照次 SUZUTA,Teruji
1916~1981
白磁水滴 猿
Whiteporcelain Water-Dropper:Monkey
c.1944(昭和19)
白磁 8.5×5.7×H7.2
底底銘「鈴」
平成2年度 寄贈 9179

工芸



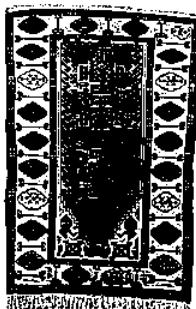
10. F-40-5 (3)

鈴田照次 SUZUTA, Teruji
1916~1981
染付柳図皿
Porcelain Dish: Willow Design
c.1945(昭和20)
白磁染付 口径 14.7×H1.7
高台内銘「鈴」
平成2年度 寄贈 9180



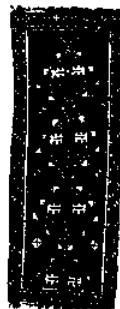
11. F-40-5 (3)

鈴田照次 SUZUTA, Teruji
1916~1981
色絵面浮立図皿
Porcelain Dish: Menburyu Dance
c.1945(昭和20)
白磁・色絵 口径 19.7×H2.1
高台内銘「鈴」
平成2年度 寄贈 9181



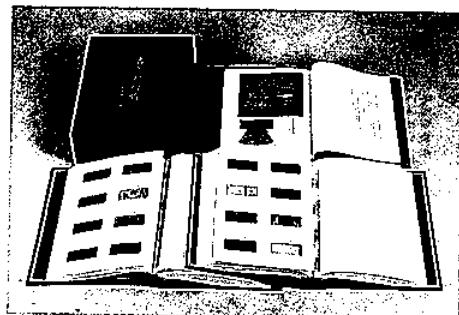
12. F-40-5

トルコ産
アクサライ絨毯 寺院に龍文
Turkish Rug: Temple Round Dragon
1989
羊毛 192.0×133.0
平成2年度 購入 9201



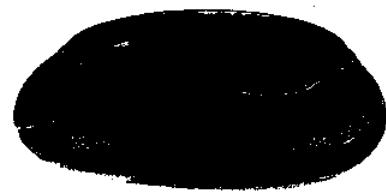
13. F-40-5

トルコ産
クルド族絨毯 龍文
Turkish Rug: Dragon Pattern
c.1960
山半・一部羊毛 307.5×115.7
平成2年度 購入 9202



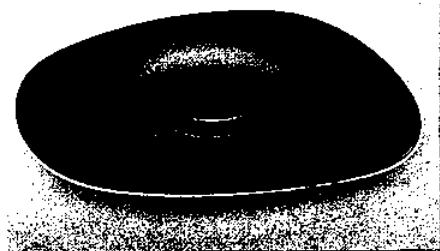
14. F-40-5

堀切辰一 HORIKIRI, Tktsuichi
1925~
裂帖「古ぎれ行脚」
Sample Book of Cloths
1991(平成3)
木綿他・1組(3) 36.0×26.7×H10.3
平成2年度 購入 9211



15. F-40-6

副島太郎 SOEJIMA, Taro
1948~
硝子 龍潜む沼
Glass: Swamp Hidden Dragon
1990(平成2)
ガラス 腹径 38.5×H16.8
平成2年度 購入 9213



3. F-40-6

島太郎 SOEJIMA, Tarō

148~

子 湖水

lass:Lake

90(平成2)

ラス 口径 53.7×H3.1

成2年度 購入 9214

3. 平成2年度 特別企画展(美術館) わが魂をえがく 鍋島紀雄の世界展

主催 佐賀県立美術館

会期 平成3年1月26日(土)～2月17日(日)

会場 美術館2・3・4号展示室

観覧料	大人	大・高生	中・小生
個人	510円	250円	150円
団体	410円	150円	100円

図録 四六版12切変形(27×12cm)

アート紙 160頁(図版カラー)

主旨

鍋島紀雄(なべしま きお、1897年5月26日-1968年2月19日)は、元佐賀蓮池藩連枝鍋島熊太郎の長男として大阪に生まれた。1916(大正5)年、東京美術学校日本画科に入学。川合玉堂、結城素明、松岡映丘に師事、大正10年美校を卒業した。

1941(昭和16)年、東京銀座紀伊国屋画廊において第1回作品発表を行う。その後昭和42年の大阪ギャラリーカワチでの第8回個展が生前最後の発表となった。

河北倫明氏は鍋島を評して「日本画から出て洋画的感覚を加えた鍋島紀雄の滋潤の彩調には、心情の深々とした美しさが一種の芳香をともないながらにじんでいる。」と語られたが、こうした鍋島の表現の自由さは、画壇に背をむけた、アウトサイダー的な作画態度と相俟って、きわめて特異な作風をかたちづくった。まさに、昭和の南画、文人画家と呼ぶにふさわしい画家であったといえる。

1968(昭和43)年2月19日、死去。享年70。

本県では、これまでこの異色の画家について知ることは少なかった。本展覧会はそれゆえ、鑑賞者にとって、驚きと新奇さにみちた真摯な対話の場となった。



白珠紅花
1940(昭和15)年

3. 平成2年度 特別企画展(美術館) わが魂をえがく 鍋島紀雄の世界展

主 催 佐賀県立美術館
会 期 平成3年1月26日(土)～2月17日(日)
会 場 美術館2・3・4号展示室

観覧料	大 人	大・高生	中・小生
個人	510円	250円	150円
団体	410円	150円	100円

図録 四六版12切変形(27×12cm)
アート紙 160頁(図版カラー)

主旨

鍋島紀雄(画号「二忘」)は1897(明治30)年5月26日、元佐賀蓮池藩連枝鍋島熊太郎の長男として大阪に生まれた。1916(大正5)年、東京美術学校日本画科に入学。川合玉堂、結城素明、松岡映丘に師事、大正10年美校を卒業した。

1941(昭和16)年、東京銀座紀伊国屋画廊において第1回作品発表を行う。その後昭和42年の大阪ギャラリーカワチでの第8回個展が生前最後の発表となった。

河北倫明氏は鍋島を評して「日本画から出て洋画的感覚を加えた鍋島紀雄の滋潤の彩調には、心情の深々とした美しさが一種の芳香をともないながらにじんでいる。」と語られたが、そうした鍋島の表現の自由さは、画壇に背をむけた、アウトサイダー的な作画態度と相俟って、きわめて特異な作風をかたちづくった。まさに、昭和の南画、文人画家と呼ぶにふさわしい画家であったといえる。

1968(昭和43)年2月19日、死去。享年70。

本県では、これまでこの異色の画家について知ることは少なかった。本展覧会はそれゆえ、鑑賞者にとって、驚きと新奇さにみちた真摯な対話の場となった。



白珠紅花
1940(昭和15)年

作品目録

番号	作 品 名	品 質	寸法(cm) たて×よこ	制 作 年	落 款
1	秋草の図	紙本着色	66.1×130.8	1915(大正4)年	
2	武蔵野	水墨・紙	24.7×33.6	1917(大正6)年	
3	冬の山	岩絵具・紙	30.8×41.2	1918(大正7)年	
4	美術学校の庭にて	紙本着色	143.8×80.5	1918(大正7)年	紀雄「鍋島」(白文方印) 「紀雄」(朱文円印)
5	秋	紙本着色	134.2×65.1	1918(大正7)年	鍋島紀雄「鍋島紀雄」(白文方印) 「Nabeshima」(朱文楕円印)
6	自画像	岩絵具・紙	30.8×24.3	1919(大正8)年	
7	自画像	水墨・紙	32.0×25.4	1919(大正8)年	鍋島紀雄「紀雄」(朱文円印)
8	三弟の図	紙本着色	133.4×61.1	1920(大正9)年	紀雄「画人鍋島」(朱文方印)
9	楽秋路水車図	紙本着色	75.0×10.9	1920(大正9)年	紀雄「鍋島」(白文方印)
10	境野村風景	水彩・紙	29.3×37.0	1920(大正9)年	紀雄「鍋島」(白文方印)
11	蓮池旧城跡風景	水彩・紙	17.7×20.9	1920(大正9)年	紀雄「鍋島」(白文方印)
12	藤椅子に坐す被布の少女	紙本着色	124.0×66.3	1921(大正10)年	紀雄「鍋島」(朱文方印)
13	晩秋	水彩・紙	28.7×37.5	1921(大正10)年	紀雄「鍋島」(白文方印)
14	京東山道	岩絵具・紙	20.8×32.8	1923(大正12)年	紀雄「鍋島」(白文方印) 「画人鍋島」(朱文方印)
15	早春 III	紙本着色	132.8×33.3	1923(大正12)年	紀雄「画人鍋島」(朱文方印)
16	蘭子の袴顔	水墨・紙	33.3×44.8	1926(大正15)年	紀雄
17	二上山	水彩・紙	34.4×46.4	1926(大正15)年	紀雄「画人鍋島」(朱文方印)
18	夏月夜	紙本墨画	132.4×66.4		紀雄「鍋島」(白文方印)
19	滝	紙本墨画淡彩	132.4×66.9	1931(昭和6)年	紀雄「画人鍋島」(朱文方印)
20	晩秋	紙本着色	125.5×65.0	1932(昭和7)年	紀雄「画人鍋島」(朱文方印)
21	早春 II	紙本着色	135.8×51.7		「画人鍋島」(朱文方印)
22	石碑のある風景	紙本着色	132.0×64.8		「画人鍋島」(朱文方印)
23	川沿いの家	紙本墨画	132.6×67.0	1933(昭和8)年	紀雄「画人鍋島」(朱文方印)
24	山蹊	紙本着色	121.5×16.2		「二忘居」(白文方印)
25	煙突のある風景	紙本着色	134.6×21.8		「画人鍋島」(朱文方印)
26	滝ある山	紙本着色	133.5×22.2		二忘「画人鍋島」(朱文方印)
27	山居秋暝	紙本着色	136.5×30.5		「画人鍋島」(朱文方印)
28	秋の山寺	紙本着色	136.8×30.6		二忘「画人鍋島」(朱文方印)
29	敏馬の浜	紙本墨画淡彩	16.8×69.6	1939(昭和14)年	二忘「鍋島」(白文方印)
30	入江の漁歌	紙本着色	136.2×51.9		「画人鍋島」(朱文方印)
31	柳風煙	紙本墨画淡彩	134.8×68.7	1940(昭和15)年	二忘紀雄
32	竜炎老松	紙本着色	69.8×46.4	1940(昭和15)年	二忘「画人鍋島」(朱文方印)
33	義仲寺の庭園	紙本墨画淡彩	132.5×67.0		紀雄二忘居「画人鍋島」(朱文方印)
34	白珠紅花	紙本着色	136.5×67.8	1940(昭和15)年	紀雄「画人鍋島」(朱文方印) 「二忘居」(白文方印)
35	春山溪曲	紙本着色	22.9×94.5	1948(昭和23)年	二忘居作「画人鍋島」(朱文方印)
36	山水図	紙本着色	136.0×33.2	1948-49 (昭和23-24)年	「二忘居」(白文方印)
37	富士	紙本着色	34.0×114.0		「画人鍋島」(朱文方印) 「鍋島」(白文方印) 「紀雄」(朱文円印)

番号	作 品 名	品 質	寸法(cm) たて×よこ	制 作 年	落 款
38	冨岳図	紙本着色	22.5×118.7	1949(昭和24)年	「画人鍋島」(朱文方印)
39	垂水の夏	紙本墨画淡彩	132.3×67.1	1950(昭和25)年	二忘「画人鍋島」(朱文方印)
40	ヨットの見える風景	紙本墨画淡彩	106.3×67.0	1950(昭和25)年	二忘紀雄、「画人鍋島」(朱文方印)
41	羽曳山風景	岩絵具・紙	27.5×36.0	昭和20年代	「画人鍋島」(朱文方印)
42	釣人	岩絵具・紙	63.9×48.2		「鍋島」(白文方印) 「二忘居」(白文方印)
43	山麓	岩絵具・紙	17.8×47.9	1952(昭和27)年	二忘
44	山麓	紙本墨画淡彩	23.0×69.2	1952(昭和27)年	二忘
45	白雲草堂を帶ぶ	岩絵具・紙	34.7×15.2	1952(昭和27)年	「画人鍋島」(朱文方印)
46	春山懸松図	岩絵具・紙	35.8×18.3	1952(昭和27)年	「画人鍋島」(朱文方印)
47	内海の日の出	紙本着色	132.6×37.1	1954(昭和29)年	二忘居「鍋島」(白文方印) 「紀雄」(朱文方印)
48	紅梅図	紙本着色	90.5×22.1	1955(昭和30)年	「画人鍋島」(朱文方印)
49	紫雲の峠	岩絵具・紙	53.7×33.9	1958(昭和33)年	「画人鍋島」(朱文方印)
50	上高知車窓風景	岩絵具・紙	32.8×23.3	1958(昭和33)年	「画人鍋島」(朱文方印)
51	風景	岩絵具・紙	33.2×24.2		
52	双松図	岩絵具・紙	22.2×26.8	1959(昭和34)年	「画人鍋島」(朱文方印)
53	滝 II	岩絵具・墨・紙	22.3×34.7	1959(昭和34)年	「画人鍋島」(朱文方印)
54	黄色のダリア	紙本着色	121.7×33.5	1960(昭和35)年	二忘居「画人鍋島」(朱文方印)
55	蓝色のダリア	紙本着色	114.6×33.5	1960(昭和35)年	二忘居
56	菜園の桃	岩絵具・紙	53.0×41.3	1960(昭和35)年	「画人鍋島」(朱文方印)
57	尾道風景	岩絵具・紙	49.4×72.5	1960(昭和35)年	二忘居「画人鍋島」(朱文方印)
58	海客無心	岩絵具・紙	46.5×53.0		「画人鍋島」(朱文方印)
59	帆迦	岩絵具・紙	22.9×15.0	1960(昭和35)年	「画人鍋島」(朱文方印)
60	花径の流れ	岩絵具・紙	27.7×22.5	1960(昭和35)年	「画人鍋島」(朱文方印)
61	彩雲漁舟	岩絵具・紙	28.2×47.0		「画人鍋島」(朱文方印)
62	燐銀海山風姿	岩絵具・紙	45.8×53.3	1962(昭和37)年	「画人鍋島」(朱文方印)
63	潮騒	岩絵具・紙	22.3×29.0	1962(昭和37)年	「画人鍋島」(朱文方印)
64	風舞	紙本墨書き・画	17.3×67.9	1962(昭和37)年	二忘「鍋島」(白文方印)
65	風光芬芳(鷺羽山下眺望)	岩絵具・紙	33.3×46.3	1962(昭和37)年	「画人鍋島」(朱文方印)
66	山影秋色	岩絵具・紙	17.2×58.6	1962(昭和37)年	「画人鍋島」(朱文方印)
67	ダリア	岩絵具・紙	70.0×24.0	1962(昭和37)年	「画人鍋島」(朱文方印)
68	銀灰色のダリア	岩絵具・紙	52.0×44.3	1962(昭和37)年	「画人鍋島」(朱文方印)
69	白花の行方	岩絵具・紙	32.1×66.4	1962(昭和37)年	「画人鍋島」(朱文方印)
70	燐銀のダリア	岩絵具・紙	47.0×39.3	1963(昭和38)年	「画人鍋島」(朱文方印)
71	ダリア VII	岩絵具・紙	53.7×46.6	1963(昭和38)年	「画人鍋島」(朱文方印)
72	ダリア II	岩絵具・紙	41.4×31.5	1963(昭和38)年	「画人鍋島」(朱文方印)
73	花と壺(俱会の花薔薇)	岩絵具・紙	68.2×48.6	1963(昭和38)年	「画人鍋島」(朱文方印)
74	庭の千草	岩絵具・紙	68.4×48.7	1963(昭和38)年	「画人鍋島」(朱文方印)
75	紅花歎惜図	岩絵具・紙	53.7×45.2	1963(昭和38)年	「画人鍋島」(朱文方印)
76	胡蝶春	岩絵具・紙	30.0×50.1	1963(昭和38)年	「画人鍋島」(朱文方印)
77	幾山河	岩絵具・紙	22.2×27.8	1964(昭和39)年	「画人鍋島」(朱文方印)
78	星月夜	岩絵具・紙	15.2×23.0	1964(昭和39)年	「画人鍋島」(朱文方印)
79	登り坂	岩絵具・紙	21.7×18.7	1964(昭和39)年	「画人鍋島」(朱文方印)

番号	作品名	品質	寸法(cm) たて×よこ	制作年	落款
80	二上山の夜明け	岩絵具・紙	17.7×33.5	1964(昭和39)年	「画人鍋島」(朱文方印)
81	彩波	岩絵具・紙	16.6×23.5	1964(昭和39)年	「画人鍋島」(朱文方印)
82	陽炎の海	岩絵具・紙	35.0×26.5	1964(昭和39)年	「画人鍋島」(朱文方印)
83	富貴図	岩絵具・紙	32.6×66.4	1964(昭和39)年	「画人鍋島」(朱文方印)
84	ダリア	岩絵具・紙	41.3×68.6		「画人鍋島」(朱文方印)
85	四つのリンゴ	岩絵具・紙	39.0×48.1	1964(昭和39)年	「画人鍋島」(朱文方印)
86	ペルシャ背の菊	岩絵具・紙	33.4×24.2	1964(昭和39)年	「画人鍋島」(朱文方印)
87	鶴頸瓶の紫の薔薇	岩絵具・紙	51.0×40.5	1964(昭和39)年	「画人鍋島」(朱文方印)
88	水仙図	岩絵具・紙	39.2×16.1	1965(昭和40)年	「画人鍋島」(朱文方印)
89	夢寐の摩訶芬陀利華	岩絵具・紙	53.2×45.6	1965(昭和40)年	「画人鍋島」(朱文方印)
90	クリスタルの白き花	岩絵具・紙	53.4×41.3	1965(昭和40)年	「画人鍋島」(朱文方印)
91	クリスタルの赤き花	岩絵具・紙	60.8×42.5	1965(昭和40)年	「画人鍋島」(朱文方印)
92	野の花	岩絵具・紙	38.4×46.5	1965(昭和40)年	「画人鍋島」(朱文方印)
93	赤き小さき花	岩絵具・紙	33.5×24.8	1965(昭和40)年	「画人鍋島」(朱文方印)
94	一つの柿	岩絵具・紙	23.3×45.0	1965(昭和40)年	「画人鍋島」(朱文方印)
95	柿二つ	岩絵具・紙	25.9×24.3	1965(昭和40)年	「画人鍋島」(朱文方印)
96	屋島の月夜	岩絵具・紙	33.6×24.3	1965(昭和40)年	「画人鍋島」(朱文方印)
97	溪流	岩絵具・紙	16.6×24.6	1965(昭和40)年	「画人鍋島」(朱文方印)
98	夜明けの磯	岩絵具・紙	36.1×25.6	1965(昭和40)年	「画人鍋島」(朱文方印)
99	内海の島々	岩絵具・紙	28.4×24.0	1965(昭和40)年	「画人鍋島」(朱文方印)
100	赤い船	岩絵具・紙	67.9×45.0	1965(昭和40)年	「画人鍋島」(朱文方印)
101	漆工秀助老	岩絵具・紙	38.4×29.3	1965(昭和40)年	紀雄畫
102	滝 I	岩絵具・紙	86.4×23.0	1966(昭和41)年	「画人鍋島」(朱文方印)
103	老松	岩絵具・紙	88.2×28.2	1966(昭和41)年	「画人鍋島」(朱文方印)
104	海老図	岩絵具・紙	40.8×59.7	1966(昭和41)年	「画人鍋島」(朱文方印)
105	琉球朱盆の榮螺	岩絵具・紙	39.2×46.8	1966(昭和41)年	「画人鍋島」(朱文方印)
106	暁の海辺	岩絵具・紙	28.7×24.5	1966(昭和41)年	「画人鍋島」(朱文方印)
107	金雲海島	岩絵具・紙	24.0×38.5	1966(昭和41)年	「画人鍋島」(朱文方印)
108	海島図(鷲羽山展望)	岩絵具・紙	62.5×131.8	1966(昭和41)年	「画人鍋島」(朱文方印)
109	隨雨歎晴図	岩絵具・墨・紙	69.6×142.0	1966(昭和41)年	「画人鍋島」(朱文方印)
110	白百合の図	岩絵具・紙	35.2×21.3	1966(昭和41)年	「画人鍋島」(朱文方印)
111	海島天然(鷲羽山展望海景大図)	岩絵具・紙	169.5×186.6	1967(昭和42)年	
112	故世の梅	岩絵具・墨・紙	169.4×139.0	1967(昭和42)年	
113	魄夢輪図	岩絵具・紙	46.8×29.0	1967(昭和42)年	「画人鍋島」(朱文方印)
114	ダリア XII	岩絵具・紙	50.5×40.1	1967(昭和42)年	「画人鍋島」(朱文方印)
115	池花春日に映ゆ	岩絵具・紙	23.3×31.2	1967(昭和42)年	「画人鍋島」(朱文方印)
116	キリスト	岩絵具・紙	34.5×25.6	1967(昭和42)年	「画人鍋島」(朱文方印)
117	惜別の紅珠	岩絵具・紙	33.1×24.6	1968(昭和43)年	
118	惆悵の三玉	岩絵具・紙	24.0×32.2	1968(昭和43)年	
119	三つのリンゴ	岩絵具・紙	21.5×30.5	1968(昭和43)年	
120	三つのリンゴ	岩絵具・紙	32.8×34.3	1968(昭和43)年	「画人鍋島」(朱文方印)
121	四つのリンゴ	岩絵具・紙	23.0×35.8	1968(昭和43)年	
122	三つの碧玉	岩絵具・紙	23.4×35.7	1968(昭和43)年	「画人鍋島」(朱文方印)

下絵・その他

番号	作 品 名	品 質	寸法(cm) だい×よこ	制 作 年	落 款
123	金仙花	水彩・紙	40.1×55.3	1916(大正5)年	
124	藤椅子に坐す被布の少女 下絵	パステル・紙	137.7×67.1	1921(大正10)年	
125	ビーズ編してゐる女	紙本淡彩	136.6×68.3	1931(昭和6)年	紀雄
126	随雨歎晴図 下絵	コンテ・紙	60.5×136.2	1966(昭和41)年	「画人鍋島」(朱文方印)
127	海島図 下絵	コンテ・紙	69.7×187.8	1966(昭和41)年	「画人鍋島」(朱文方印)
128	海島図 下絵	コンテ・紙	66.3×92.4	1966(昭和41)年	「画人鍋島」(朱文方印)
129	故世の梅 下絵 I	コンテ・紙	96.8×69.7	1967(昭和42)年	「画人鍋島」(朱文方印)
130	故世の梅 下絵 II	コンテ・紙	96.8×69.5	1967(昭和42)年	「画人鍋島」(朱文方印)
131	詩書 「沈丁華」	紙本墨書き	22.6×22.1	1935(昭和10)年	二忘居「紀雄」(朱文円印)
132	詩書 「星」	紙本墨書き	20.8×17.8	1966(昭和41)年	紀雄
133	詩書 「波の上」	紙本墨書き	21.0×18.0	1968(昭和43)年	紀雄

所 藏

○佐賀県立美術館 No42「釣人」 No43「山麓」 No69「白花の行方」 No100「赤い船」

○上記以外は個人所蔵

4. 企画展ならびにその他の展覧会 平成2年度

展 覧 会 名	会 期	主 催
第3回九州国画会佐賀支部写真展	4／3～4／8	九州国画会写真部佐賀支部
抒情の美 近代日本の美人画展一目黒雅叙園コレクション	4／13～5／13	毎日新聞社、佐賀県立美術館
第74回二科展	5／18～6／3	佐賀新聞社、佐賀県立美術館
第73回佐賀美術協会展	6／7～6／17	佐賀美術協会、佐賀県立美術館
ブリヂストン美術館名作展	6／23～7／22	佐賀新聞社、佐賀県立美術館
東光会佐賀支部緑光会展	7／24～7／29	東光会佐賀支部緑光会
第21回独立C S展	8／1～8／5	独立C Sグループ
第18回七夕書道展	8／7～8／12	佐賀県書道教育連盟、佐賀県立美術館
第11回九州新工芸展	8／21～8／26	九州新工芸家連盟、佐賀県立美術館
第10回創元会佐賀県支部展	8／29～9／2	創元会佐賀県支部
第7回佐賀県写真協会展	9／4～9／9	佐賀県写真協会、佐賀県立美術館
第22回佐賀県勤労者美術展	9／12～9／16	佐賀県労政訓練課、佐賀県立美術館
第15回佐賀県書作家協会展	9／19～9／24	佐賀県書作家協会、佐賀県立美術館
美術館への道程展 —いかにしてコレクションは形づくられたか—	9／28～10／21	佐賀県立美術館
高等学校美術選抜展	10／23～10／28	第27回全国高等学校美術・工芸教育研究会
第14回高等学校芸術祭書道展	10／31～11／8	佐賀県教育庁文化課、佐賀県高等学校文化連盟
第13回さが行動展	10／31～11／4	さが行動美術協会
第40回佐賀県美術展	11／17～11／25	佐賀県教育庁文化課
第31回佐賀県学童美術展	11／27～12／2	佐賀県造形教育会、佐賀県立美術館
第32回佐賀大学教育学部美術工芸科総合展	12／4～12／9	佐賀大学教育学部
第11回佐賀新聞学生書道展	12／11～12／16	佐賀新聞社
第14回高等学校芸術祭美術展	12／18～12／24	佐賀県教育庁文化課、佐賀県高等学校文化連盟
第3回佐賀県現代作家美術展	1／5～1／20	佐賀新聞社、佐賀県立美術館
わが魂をえがく 鍋島紀雄の世界展	1／26～2／17	佐賀県立美術館
創造 in saga 1978～1990 —県展・美協展優秀作品13年の歩み一展	1／26～2／17	佐賀県教育庁文化課、佐賀県立美術館
第39回佐賀大学教育学部美術工芸科卒業制作展	2／19～2／24	佐賀大学教育学部
第15回九州藍笛会展	2／26～3／3	九州藍笛会
第13回二紀佐賀グループ展	3／5～3／10	二紀佐賀グループ
第5回総合美術ハチロク展	3／13～3／17	総合美術ハチロク
福岡・佐賀・長崎三県合同企画展「洋画への挑戦—洋風画から洋画へ—」	3／20～3／31	福岡県立美術館、佐賀県立美術館、長崎県立美術博物館

5. 美術館観覧状況調べ 平成2年度

展覧会名	個人			団体		
	大人	大・高	中・小	大人	大・高	中・小
第3回 九州国画会写真部佐賀支部展	490	12	18			
抒情の美 近代日本の美人画展	5,147	253	402		73	39
第74回 二科展	6,158	458	1,119		429	204
第73回 佐賀美術協会展	1,932	136	159	50	24	233
ブリヂストン美術館名作展	16,235	2,612	3,840	206	1,721	1,842
第31回東光会佐賀支部緑光会展	652	96	199			
第21回 独立C.S.展	480	39	63			
第18回 七夕書道展	747	16	738			
第11回 九州新工芸展	1,090	31	163			
第10回創元会佐賀県支部展	792	40	69	230		
第7回 佐賀県写真協会展	1,103	47	39			
第22回 佐賀県勤労者美術展	1,344	33	75			
第15回 佐賀県書作家協会展	1,125	8	14		324	
高等学校美術選抜展	284	87	25	250		
第14回佐賀県高等学校芸術祭書道展	466	473	70		454	
第13回さが行動美術展	534	348	72			
第31回佐賀県学童美術展	2,174	166	1,573		72	1,096
第40回 佐賀県美術展	4,297	288	608	535	379	310
第32回 佐賀大学教育学部 美術・工芸科総合展	417	198	41	6		182
第10回 佐賀新聞学生書道展	351	5	203			
第14回佐賀県高等学校芸術祭美術展	413	238	71	1		124
第3回 佐賀県現代作家美術展	4,484	317	488	1	295	316
創作 inSaga.1978 ~ 1990 一県展・美術展優秀作品13年の歩み一展	3,107	164	522			
わが魂をえがく 鍋島紀雄の世界展	1,063	47	107	121	5	84
第39回 佐賀大学教育学部 美術工芸科卒業制作展	623	91	303		30	31
第15回九州藍苟会かな書作展	349					
第13回二紀佐賀グループ展	665	31	74			28
第5回 総合美術ハチロク展	852	67	42	23		36
第1回福岡・佐賀・長崎三県合同企画展 「西洋絵画への挑戦」	1,278	102	126	23		33
計	58,652	6,403	11,223	1,446	3,806	4,558

観覧料免除			招待者	優待者	合計	開館日数	一日平均	会期期間
大人	大・高	中・小						
					520	6	87	4/3~4/8
			7,022		12,936	27	479	4/13~5/13
			3,511		11,879	15	792	5/18~6/3
					2,534	10	253	6/7~6/17
			9,397		35,853	26	1,379	6/23~7/22
					947	6	158	7/24~7/29
					582	5	116	8/1~8/5
					1,501	5	300	8/8~8/12
					1,284	6	214	8/21~8/26
					1,131	5	226	8/29~9/2
					1,189	6	198	9/4~9/9
					1,452	5	290	9/12~9/16
					1,471	6	245	9/19~9/24
					646	6	108	10/23~10/28
					1,463	9	163	10/31~11/8
					954	6	159	10/30~11/4
					5,081	6	847	11/27~12/2
			2,137		8,554	8	1,069	11/17~11/25
					844	6	141	12/4~12/9
					559	6	93	12/11~12/16
					847	7	121	12/18~12/24
			2,432		8,333	14	595	1/5~1/20
					3,793	20	190	1/26~2/17
			688		2,115	20	106	1/26~2/17
					1,078	6	180	2/19~2/24
					349	6	58	2/26~3/3
					798	6	133	3/5~3/10
					1,020	5	204	3/13~3/17
			510		2,072	11	188	3/20~3/31
			25,697		111,785	270	414	

6. 普及活動

(1) 資料の刊行

館報・年報・調査研究書 博物館と合同で刊行した。

図録 「わが魂をえがく 鍋島紀雄の世界展」の
項を参照のこと。

(2) 実技講座：石膏デッサン教室

講 師 深川善次氏 前佐賀大学教授

会 期 平成 2 年 7 月 16 日～ 7 月 20 日
14:00～16:00

会 場 佐賀県立美術館画廊・研修室
受講者 21名

(3) 研究講座

1. 記念講演会

「創造 in SAGA — 県展・美協展優秀作品13年の
歩み —」展の開催を記念して下記の内容で実施し
た。

演題「生活のよろこびとデザイン」

講師 萩原孝三氏（佐賀大学教育学部助教授）

日時 平成 3 年 2 月 9 日(土)午後 2 ～ 4 時

会場 佐賀県立博物館・博物館教室

「福岡・佐賀・長崎三県合同企画展 洋画への挑戦
— 洋風画から洋画へ —」の開催を記念して下記
の内容で実施した。

演題「まだ見ぬ国の絵画 — 洋風画 —」

講師 德山 光氏

（長崎県立美術博物館主任学芸員）

日時 平成 3 年 3 月 30 日(土)午後 2 ～ 4 時

会場 佐賀県立博物館・博物館教室

7. 資料調査

平成 2 年

5 月 19 日～ 24 日 企画展「鍋島紀男の世界」展にともなう調査（大阪市）学芸員 松本誠一

8. ホール・画廊・研修室催しもの

美術館ホール利用状況

月別	利用団体数	延入場者数	音 楽	演 劇	洋舞・邦舞	映写会	その他	備 考
4	8	2,034	7			1		
5	10	2,655	5	1			4	
6	11	3,177	7			2	2	
7	7	3,581	6				1	
8	12	3,989	9			1	2	
9	11	4,544	5	2		1	3	
10	9	2,183	5			1	3	
11	13	2,959	4	2		2	5	
12	11	3,086	9				2	
1	11	3,967	7	1	1	1	1	
2	8	2,663	5			1	2	
3	10	3,181	9	1				
計	121	38,019	78	7	1	10	25	

画廊・研修室の利用状況

月別	展 覧 会			そ の 他
	利 用 団 体 数	延 会 期 日 数	入 場 者 数	
4	3	17	1,953	1. 研究会 2回(デッサン教室等)
5	5	25	2,776	2. 展覧会準備・控室 2回
6	3	18	3,677	3. ホール催物控室 4回
7	3	18	2,336	
8	3	16	2,571	
9	3	14	2,587	
10	5	24	2,940	
11	3	12	663	
12	3	18	1,485	
1	4	24	2,524	
2	4	22	5,466	
3	5	29	3,405	
計	44	237	32,383	計 8回

資料の概要 —平成二年度・美術館—

1. 購入資料

作家名・作品名	制作年	数量	規 格	備 考
〔美術資料〕				
久米桂一郎 子供のいる風景	1985年	1点	45.3×60.5	油彩・キャンバス
北島浅一 裸婦	1919年頃	1点	79.8×63.7	油彩・キャンバス
北島浅一 立てる裸婦	1926年頃	1点	129.0×80.0	油彩・キャンバス
北島浅一 横たわる裸婦	1927年	1点	80.0×99.5	油彩・キャンバス
高取雅成 月下問答図	不詳	1点	133.3×41.6	掛幅 岩絵具・絹
鍋島紀雄 海島天然	1966年	1点	169.5×186.6	屏風 2曲1隻
鍋島紀雄 隨雨歎晴図下絵	1966年	1点	60.5×136.2	額装 コンテ・紙
牧野宗則 赤い風船	1990年	1点	43.9×74.1	多色木版
牧野宗則 祈り	1991年	1点	49.2×35.3	多色木版
〔工芸資料〕				
豊田勝秋 鎌銅四方花さし	1931年頃	1点	32.4×23.1×36.0	ブロンズ、菱形柱状
松尾忠次 金銀鉄花器	1958年	1点	28.6×15.3×41.8	鉄下地、内おとし銀
松尾忠次 金華花器	1960年	1点	30.8×20.7×39.8	純銅下地に金メッキ
松尾忠治 布目象嵌器	1976年	1点	30.5×30.4×42.0	鉄、加飾一銀
松尾忠次 銀鱗	1987年	1点	24.0×20.4×55.9	鉄、加飾一銀
副島太郎 硝子龍潛む沼	1990年	1点	28.0×20.1×16.8	三脚付鉢、宙吹き成形
副島太郎 硝子湖水	1990年	1点	口径53.7×44.8	平皿、宙吹き成形
鈴田照次デザイン 鍋島綾通 唐環紋	1972年	1枚	一昼夜物、片房	吉島敷物作製(1990)
鈴田照次原画 和紙型絵染カレンダー	1977年	1組	紙本額装、和紙	鈴田滋人複製(1991)

2. 寄贈資料

作家名・作品名	制作年	数量	規 格	寄 贈 者
〔美術資料〕				
深川善次 秋日	1962年	1点	112.3×145.3 油彩・画布	佐賀郡川副町大字南里557-3 深川善次
深川善次 農家の午後	1973年	1点	162.4×130.4 油彩・画布	〃 〃
深川善次 皿山の民家	1977年	1点	162.0×130.6 油彩・画布	〃 〃
深川善次 持国天像	1977年 ~83年	1点	145.0×112.2 油彩・画布	〃 〃
深川善次 はがくれの里	1987年	1点	161.8×130.4 油彩・画布	〃 〃
吉武研司 肖像—顔の風景	1989年	1点	162×162 油彩・キャンバス	世田谷区桜新町2-21-1-201 吉武研司

作家名・作品名	制作年	数量	規 格	寄 贈 者
山 口 亮 一 三船山観梅の宴	1953年	1点	24.4×33.6 水彩・紙・墨書き	佐賀市東佐賀町14-13 坂田儀助
山 口 孝 行 画室	1963年	1点	162.0×130.3 油彩・キャンバス	佐賀市水ヶ江5丁目6-22 山口ヨシ
山 口 孝 行 ばら	1962年	1点	41.0×31.9 油彩・キャンバス	" "
山 口 孝 行 一隅を照す	1974年	1点	45.3×37.7 油彩・キャンバス	" "
山 口 孝 行 モスクワの朝	1975年	1点	90.8×116.5 油彩・キャンバス	" "
山 口 孝 行 早春の林	1978年	1点	116.6×90.8 油彩・キャンバス	" "
山 口 孝 行 老梅	1979年	1点	45.2×52.9 油彩・キャンバス	" "
山 口 孝 行 紬若葉	1980年	1点	111.9×145.3 油彩・キャンバス	" "
甲 妻 仁 代 旅の日記	1943年	1巻	21×132 水彩・紙、巻紙	大田区南馬込4-31-8 仲田好江
甲 妻 仁 代 静物	不詳	1点	11.0×19.0 油彩・紙、板貼	" "
山 口 草 四 朗 オンフルール	1989年	1点	161.8×130.4 油彩・画布	川崎市多摩区生田4-12-6 山口草四朗
〔工芸資料〕				
小 宮 康 正 型付・小宮康孝染色 江戸小紋尽小袱紗	1990年	1組 15枚	絹縮緬地 小形袱紗	葛飾区西新小岩3-7-4 小宮康孝
鈴 田 照 次 白磁水滴 猿	1944年頃	1点	8.5×5.7×7.2	北海道千歳市白樺5-11-4 松田 仁
鈴 田 照 次 染付柳図皿	1945年頃	1点	14.7×8.6 白磁染付	" "
鈴 田 照 次 色絵面図浮立皿	1945年頃	1点	19.7×12.2 白磁に上絵	" "

3. 管理換資料

作家名・作品名	制作年	数量	規 格	備 考
田中 孝 母の顔	1990年	1点	52.5 石膏	彫刻、文化課より管理換
和久井シズエ 淑(しゅう)	1990年	1点	117.0×91.1 岩絵具・紙	日本画 リ
石川博愛 窯跡のある風景	1990年	1点	162.1×162.1 油彩・布	洋画 リ
松尾房利 一隅(いちぐう)	1990年	1点	72.7×51.4	写真 リ
古賀曾康 イラストレーション TIME AND FACE (A,B)	1990年	1対	102.8×72.7 ポスターカラー	イラストレーション リ
江頭満帆 錄唐詩三首	1990年	1点	226.9×51.8	書、額装 リ

4. 寄託資料

資 料 名	数 量	寄 託 者
花器 双体	1点	佐賀市 個人
作品 昭和39年	1点	リ リ
作品 昭和41年	1点	リ リ
対	1点	リ リ
きれつ	1点	リ リ
萌(モエル)	1点	リ リ
鉄地銀彩壺 昭和52年	1点	リ リ
鉄地銀彩器	1点	リ リ
鉄地銀彩壺 昭和57年	1点	リ リ
鉄銀彩壺 昭和58年	1点	リ リ
双魚	1点	リ リ
双翅(ソウシ)	1点	リ リ
樹想	1点	リ リ

5. 資料の貸出状況

資 料 名	貸出先・目的	貸出・返却
岡田三郎助作 「伊豆山」	横須賀市(はまゆう会館) 「近代日本洋画に描かれた海展」	2.5.22~6.24
青木 繁作 「朝日」		
百武兼行作 「馬車のいる風景」	兵庫県近代美術館 「日本美術の19世紀展」	2.8.20~10.10
百武兼行作 「マンドリンを持つ少女」 「老婦人像」	西宮市大谷記念美術館 「画家たちの青春と留学展」	2.12.25~3.2.22

佐賀県博物館及び美術館協議会

委員名簿（定数 14名）

任期：平成2.7.25～平成4.7.24

区分	氏名	役職名	住所
社会学校教育関係者	野方辰美	佐賀県公民館連合会副会長	〒846 多久市東多久町大字別府6416
	古賀渡	佐賀県高等学校校長協会代表 (唐津北高校長)	〒847-03 東松浦郡呼子町殿ノ浦1101-5
	光吉緑	佐賀県小中学校長会代表 (南川副小校長)	〒840-23 佐賀郡川副町南里199
	旗崎博	佐賀県理科教育振興会代表 (新栄小校長)	〒840 佐賀市伊勢町18-14
学識経験者	松本シゲノ	佐賀県地域婦人連絡協議会会長	〒840 佐賀市嘉瀬元町2078
	大塚巖	佐賀県文化団体協議会会長	〒840 佐賀市本庄町本庄宮前1137-23
	吉田進一	佐賀美術協会理事長 (九州龍谷短大教授)	〒840-22 佐賀郡川副町犬井道47
	原口一博	佐賀県議会議員 (文教厚生常任委員会委員)	〒849 佐賀市高木瀬東2-5-41
	杉谷昭	佐賀大学教育学部教授	〒840 佐賀市嘉瀬町中原2461-30
	西谷正	九州大学文学部教授	〒813 福岡市東区千早6丁目1-914
	深川善次	佐賀大学教育学部教授	〒840-23 佐賀郡川副町南里557-3
	米倉利昭	佐賀大学教育学部教授	〒840 佐賀市赤松町7-13-302
	錦織亮介	北九州大学文学部教授	〒811-02 福岡市東区高美台1-1-7
	川原洋文	佐賀新聞社編集局長	〒840 佐賀市本庄町袋140-11

佐賀県博物館及び美術館協議会開催状況

○平成2年7月25日

- 議題 (1)平成2年度予算について
- (2)平成2年度事業について
- (3)その他

○平成3年3月22日

- 議題 (1)平成3年度予算について
- (2)平成3年度事業計画について
- (3)その他

博物館・美術館職員名簿 (平成3年4月1現在)

課名	職名	氏名	課名	職名	氏名
総務課 庶務管理係	館長	武藤佐久二	芸術課 企画普及係	学芸課長	樋渡敏璋
	副館長	小宮睦之		専門員	木下巧
	総務課長 (係長事務取扱)	菊池文夫		資料係長	宮崎武夫
	主査	吉川宣明		学芸員	蒲原宏行
	主査	古賀恭子		学芸員	竹下正博
	主査	古澤貞善		非常勤嘱託	浜野四郎
	主事	赤星由季子		企画普及係長	松本誠一
	事務員	坂井卓次		主査 (学芸員)	宮原香苗
	事務員	小石武彦		学芸員	福井尚寿
	技術員	戸川内匠		学芸員	山崎和文
非常勤嘱託			計 21名		

佐賀県立博物館 年報 第21号
佐賀県立美術館

発行年月日 平成3年9月1日

編集・発行 〒840 佐賀市城内1-15-23

Tel 0952-24-3947

佐賀県立博物館
佐賀県立美術館

印刷 有限会社 大同印刷